

全船協

会報 154 号 2024 年 1 月 新春号



「えくすくうる」 山友汽船株式会社提供



一般社団法人 **全日本船舶職員協会**

JAPAN MARITIME OFFICERS' ASSOCIATION

無料船員職業紹介所(国土交通省許可第8号)

URL <https://www.zensenkyo.com>

山友汽船株式会社

代表取締役社長 望月正信

〒650-0015 神戸市中央区多聞通2丁目1番1号
TEL (078) 371-5505 FAX (078) 371-5520
Email: info@sanyukisen.co.jp

B&S ENTERPRISE

株式会社ビーアンドエス・エンタープライズ
TEL (078) 361-6971 FAX (078) 361-6972
Email: info@bands-k.com



北星海運株式会社

代表取締役社長 加藤由起夫

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号
セントラルビル6階
電話 (03) 3275-5520(代) FAX (03) 3275-5575

一般社団法人 日本船長協会

会長 中村紳也

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地
(海事センタービル5階)

電話 (03) 3265-6641
FAX (03) 3265-8710
http://www.captain.or.jp

一般社団法人 海洋会

会長 関根博

〒135-0044 東京都江東区越中島2-1-6
東京海洋大学越中島キャンパス内
産学・地域連携推進機構越中島オプゾポ棟1階

電話 (03) 3262-8632
FAX (03) 3262-6909



一般社団法人

日本船舶機関士協会

会長 四方哲郎

〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目5番地
(海事センタービル5階)

電話 (03) 3264-2518
E-mail: me-honbu@marine-engineer.or.jp
URL http://www.marine-engineer.or.jp

人と海に未来を

公益社団法人 日本海難防止協会

会長 内藤忠顕

〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町33-8
元代々木サンサンビル3F

電話 (03) 5761-6050 / E-mail: 2231jams@nikkaibo.or.jp
https://www.nikkaibo.or.jp

日本海事新聞

THE JAPAN MARITIME DAILY

試読・購読のお申し込みは

電話 03-3436-3223 まで

https://www.jmd.co.jp/

海上の友

船員と船員家庭のタブロイド版新聞 毎月1日発行
購読料 1カ月542円(税込み・送料別)

お申し込み
お問い合わせ (公財)日本海事広報協会

〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6
電話 (03) 3552-5034 FAX (03) 3553-6580

- ・海技教育支援 ・奨学金
- ・帆船「海王丸」体験航海・海洋教室 等

公益財団法人 海技教育財団

会長 池田潤一郎

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4

電話 (03) 3288-0991 https://macf.jp

ラッシング・チョッキング資材の総合サービス

株式会社ウシオ

100th
ANNIVERSARY
since 1920

代表取締役社長 牛尾 雅英

〒652-0813 兵庫県神戸市兵庫区兵庫町2丁目3番27号

電話 (078) 652-2065 / FAX (078) 652-2070

http://ushio-kk.co.jp

東京/横浜/常陸那珂/名古屋/大阪/和歌山/加古川/門司/福岡/香港

目次

表紙 ... CO2輸送実証試験船 えくすくうる 山友汽船株式会社
巻頭言『帆船 日本丸』.....会長 広重 康成 ... 2
“TROUBLE SHOOTING”.....伊勢三河湾水先区水先人会 会長 高尾 幸徳 ... 4
C号航海記（第3回）.....内海水先区水先人会水先人 会員 栗阪 肇 ... 6

北から南から

富山高等専門学校11
鳥羽商船高等専門学校16
広島商船高等専門学校22
大島商船高等専門学校25
弓削商船高等専門学校30
海技教育機構36
「弓削丸 命名・進水式」.....弓削商船同窓会 会長 柏木 実 ... 39
「新弓削丸」建造の報告.....弓削丸船長 加藤 博・機関長 松永直也 ... 41
第4代「弓削丸」を利用した新たな練習船実習
.....弓削商船高等専門学校 商船学科長 二村 彰 ... 43
第4代目練習船「弓削丸」命名・進水式に参加して
.....弓削商船高等専門学校 商船学科5年 田頭 佳乃・中神 なつみ ... 45
海事振興連盟総会 29項目を決議・海事関係会合連続開催／鳥羽商船高専視察
.....参議院議員 赤池 誠章 ... 46
本部・支部だより事務局 ...48
役員立候補者募集告示役員候補者選考委員会 ...49
賛助会員名簿事務局 ...50
会費納入者名簿.....事務局 ...51
新規入会者.....事務局 ...53
時事寸評・表紙写真解説・編集後記.....事務局 ...54



事務局からのお願い

会員の皆様におかれましては当協会の活動にご協力いただきありがとうございます。
転居等で住所変更が生じた場合は、ホームページの「会員用ページ」より、住所変更が
可能ですのでご利用ください。また、メール等による連絡でも結構です。

TEL:03-3230-2651 FAX:03-3230-2653

E-Mail:honbu@zensenkyo.com

ホームページ:https://www.zensenkyo.com



◀ 巻頭言 ▶

『帆船日本丸』

会長 広重康成



昭和 49 年 1 月 10 日、帆船日本丸は 20 歳代の学生 100 名を実習生として乗せて、晴海埠頭を出航し、ハワイへと針路を定めました。その実習生の 1 人が私です。

帆走訓練は長崎から東京までを 1 回、鹿児島からも更にもう 1 回実施してはいたものの、「さあよいよ本物の遠洋航海だ。日本とはおさらばだ！」そんな気持ちの高ぶりが船内全体に充満し、学生たちは祝杯をあげ、船酔いなのか酒のせいなのか分からなくなっていました。

東京湾を出て丸 24 時間、人生初の大時化でしたが、自然の恐ろしさをまだ何も知らない若者たちにとっては中々強烈な、味の濃いオーシャンウイスキーになりました。

1 月 15 日の朝課業は藤井春三^{ふじいしゅんぞう}、首席一等航海士の第一声から始まりました。

「今日は成人の日だ。この中にもたくさん成人式を迎える者がいる。しかし船では成人式はしない。今日、これから君たちにはマストに登ってもらう。これが君らの成人式だ！」

私は何故か胸が熱くなりました。べたべた甘やかされて育てられた私はとにかく家を出たくて、寮生活に憧れて商船学校を選んだのです。4 人兄弟の末っ子、大正生まれの父は兄にはとても厳しく、姉 2 人には甘く、更に私には砂糖漬けにするつもりか、と言いたくなるくらいべたべたに甘かった。

船乗りになろうとか、航海士になりたいとか、そんなことはこれっぽっちも思ってもいませんでした。だから学生時代はずっと悩んでいました。退学しようかと真剣に考えたこともあります。でも、このチョッサーの言葉には参りました。私の中の何かがスパッとふっ切れたのを感じました。言い表せなかった心の中のもやもやが、一瞬にして消え去ったのです。ぶるっと身体が震えました。隣に立っていた奴に気付かれたかもしれません。

どんよりと曇った冬の空に向かってそれぞれが割り当てられた場所を目指して登って行きます。上を見れば船が揺れているので雲の位置も揺れに合わせてリズムカルに移動します。足元を見ると日本丸の安全帽を被った学生の頭が続いています。誰もが緊張し、寡黙で、おごそかな気分がピンと張りつめた目には見えない糸のように繋がっていました。

帆走に切り替わった日本丸は風下側にほんの少し傾斜して滑らかに走り始めました。聞こえるのは操舵直の「ウエザー 1 枚」とか「リー 2 枚」という号令か、30 分ごとに鳴らされる点鐘の澄んだ音色のみ。揺れがほとんどなく、エンジンの振動も消え時間がゆったりと流れているのが分かります。

商船 5 校の学生が日本丸と海王丸のどちらかに振り分けられ、6 班に分割され、更に部屋が割り当てられました。8 人部屋に 7 人が入ります。自分のスペースはカーテンで仕切られたベッドだけという世界です。でも、大島商船以外の、広島、弓削、鳥羽、富山の異人種と出会ったことで

生まれ変わったような気分でした。誰もが初めての帆船日本丸です。どいつもこいつも同じ日本丸の実習生です。格好つけても仕方ありません。私は閉ざしていた心が自然解凍されていくような、じわじわと足の指先から温かいものが心臓に向かって浸み込んでいくような何とも言えない感覚を味わいました。でも間違いなく心が解放されていくのを確かなものとして受け止めていたのです。

学校で天測計算を学び、日本丸では早く正確に位置が出せるように何回も天測を繰り返します。午前中は太陽で位置を決め、夕方は星です。方向音痴の私が旅先で妻に旅館の方向を教えることができるのは天測で覚えた星のおかげです。

もう一つは海という大自然を実感したことです。長さ 97m、幅 13m、喫水 5m、総トン数 2,300ton の世界に誇る帆船日本丸が風だけの力でゆったりと走り始めたときは正直にすごい！と感動したものです。

強風の中、10 ノットも出たのには驚きました。マストが折れたらどうするんだろうとリベットで接合された外板をしみじみと眺めたことを思い出します。上甲板にはライフラインが張られます。風下を進まないと極めて危険であると痛感します。

おまけは水の大切さです。1日の清水使用量が決められグラフとして誰もが目にする食堂に貼られます。少しでもオーバーすれば即、節水です。風呂は週2回。洗濯は週1回のみ。20歳代のギトギトした男子が100人も続けて入るお風呂がどのようなものかご理解頂けますでしょうか。

当直が終わった班の順に風呂を使います。浴槽は海水風呂です。上がり湯だけ清水になっています。「しまい風呂」に当たるとバスタブの中はラードが浮いている状態です。今までの人生の中でベスト3には必ず入る気持ち悪い光景の一つです。ですから、ハワイに入港してチョッサーから「今日は水をいくら使っても許す」という言葉が出たときは、「おおっ!!」という歓声が上がったのでした。

54歳で日本丸は引退するのですが、私が実習生として乗船したのは彼女が43歳のとき。ワイ



ンならフルボディでしょう。

北緯20度辺りから貿易風帯に入り、天気も良く、気温もグッと上がり学生たちは裸足で過ごすようになります。おおよそ40日間を裸足のままで過ごしたのはあの日本丸のときだけです。

もし、私が日本丸を経験していなかったら絶対に船乗りにはなっていなかったことでしょう。一人で抱え込んでいた悩みを一切切打ち明けられたから本気で将来を考えることができたのです。テレビがない生活。手紙も届かない、ラインもメールも全くありません。ラジオも聞けません。親も兄弟も彼女も全く関わることはできない生活。プライベートは与えられた藁マットのベッド1人分だけの世界。だからこそ帆船の生活は海という大自然に溶け込んでいくのに最適の条件が揃っていたのです。

「成人の日」が来るたびにあの日のマスト登りがよみがえります。不平と不満とモヤモヤのかたまりだった私がそこにいます。

今は日本丸及び海王丸2世が誕生しています。世界に誇るすばらしい帆船を2隻も保有する海運国家日本です。我が国を支える若人たちが帆船実習と機船実習を通じて育つことを切に願い、年頭のご挨拶といたします。

“TROUBLE SHOOTING”

伊勢三河湾水先区水先人会 会長 高尾幸徳

皆様、初春のお慶びを申し上げます。

伊勢三河湾水先区水先人会会長の高尾幸徳でございます。

2023年5月30日より現職に就いており、同時に2023年6月26日より日本水先人会連合会の副会長に就任しております。

微力ではございますが水先会のため尽力させていただきます。

貴協会事務局長の飯島さんから水先会のこと、過去の日本郵船株式会社時代の経験談等を執筆して欲しいとの依頼がありました。

水先会関係では既に日本海事新聞2023年7月10日付の“CLOSE UP この人”で掲載されています。

また、水先会の会報“PILOT”にも2023年10月号にて紹介されていますので、此处では日本郵船株式会社時代、在来船事業部 PLANT TEAM 課長代理【(1993年1月11日着任(38歳)～1999年10月1日解任(44歳)】の6年9ヶ月の経験(成功例も失敗例も含めて)を“TROUBLE SHOOTING”と題してお話ししたく、少しでも若い人たちの人生の参考になればと思っております。

私は PLANT TEAM で PROJECT MANAGER CAPTAIN をしておりました。

PROJECT MANAGER CAPTAIN とは PROJECT CARGO の一貫輸送で見積もり契約から積地揚地の SUPERVISOR 業務、JOB SITE 引き渡しまで MANAGEMENT するような CAPTAIN であります。



伊勢三河湾水先区水先人会 高尾幸徳 会長

“TROUBLE SHOOTING”

M.V. “TITAN SCAN” FOR VENEZUELA
(水力発電プラント)

LOADING PORT :

日立、横浜、神戸 (3,868 m³、2, 333.3KT)

MAX. HEAVY 220KT TRANSFORMER、
RUNNER 182KT ×2 基

DISCHARGING PORT :

PORT OF PALUA、VENEZUELA

(1994-12-4 ~ 1994-12-10)

事故概要 :

オリノコ川濁水期で岸壁 HIGHT 約 12M、岸壁長さ 30M の FINGER PIER のため本船 DERRICK (175KT ×2 DERRICKS) では OUT REACH せず、揚げ荷不能に陥った。

契約 :

大手商社 (M) (大手重電メーカー H 社、M 社、T 社) —NYK—

JUMBO (下請け) — MAMMOET (孫請け)

事故処理：

- ① 事件発覚後直ちに JUMBO、MAMMOET と打ち合わせ、陸上 CRANE との共吊りのアイデアで検討、事故処理専属となる
- ② 陸上 CRANE MAX 90KT、本船 DERRICK MAX 175KT CARGO 220KT SPREADER BEAM の活用、作業許可（船級協会）
- ③ 作業保険（陸上 CRANE）への加入、OWER 'S PI 保険の補償範囲の CHECK
- ④ CONSIGNEE（電力庁）の作業許可、荷主への作業説明
- ⑤ OWNER SUPERVISOR の手配と自ら現地揚げ荷立ち合い

オランダでこの作業に関する打合せに1週間、現地 VENEZUELA のジャングルで CONSIGNEE（電力庁、スペイン語）の作業許可取得のためフランス人通訳（英語とスペイン語を話すことができる）と代理店員と私、3名で1ヶ月間説得に当りました。

さすがに電力庁、最初の会議は係長クラス、1週間後に課長クラス、2週間後に部長クラス、3週間後やっと決定権のある幹部職員が出てきて許可が下りました。

揚荷作業は無風状態の日の出とともに開始、陸上 CRANE と本船 DERRICK の共吊りはバランスを取るのが非常に難しく、陸上 CRANE に荷重が偏り倒壊の可能性もありました。

どうにか細心の注意を持って、ギリギリで成功、朝8時には作業終了しました。

この早朝スタートが幸運の女神を呼んだと思います。

電力庁ではこの作業の1日前の夕方、ほかの PROJECT の仕事に従事していた CRANE 車がダムに落下する事故が発生、急遽我々の作業の中止が決定されましたが、中止命令が届いたのはちょうど作業が終わった朝8時！ 神のご加護か？

長いジャングル生活！

絶対に成功させると心で叫びながら毎日ジ

ヤングルを走っていました。

心身の健康管理が非常に大事、そして最後の最後まで全力を尽くす、あきらめない心

もし失敗していたら、PLANT TEAM はなく、私も会社にいられなくなっていたでしょう。

“座右の銘”

今日も一日、怒らず、恐れず、悲しまず
正直、親切、愉快地

力と勇気と信念を持って生きることを厳かな
誓いとする

“ LOVE, TRUST, RESPECT and
KINDNESS for all over the world “



C号航海記（第3回）

内海水先区水先人会水先人 会員 栗 阪 肇

前号まで： 船長として一番気を付けなければならぬこと。それは、船を動かすとき

「慎重に」なることです。商船学校や練習船実習では、「頭より先に船を進めるな」と教えてもらいました。その他、諸先輩からアドバイスを頂いたのは、「自分を出さない」「頑張らない」「船を良くする」「船の痛みを分かってやる」 船長として初実職となる本船C号では、これらのアドバイスを反復しながら船務に励むのでした。



Jomard 島（Jomard Entrance、ソロモン海と珊瑚海とを結ぶ）

6-15) 皆既日食

横浜を出帆した後、豪州東岸 Dalrymple Bay へ2回目入港する日の朝となりました。11月14日7時前、それまで明るかった空が一瞬夜のようにになりました。いったい何が起こったのだろうと、一等航海士の航海当直中、たまたま起きていた二等航海士、当直甲板手と船橋ウイングに出て空を仰いでみました。皆既日食が起こったのです。

皆既日食とは、月が太陽面全体をおおい隠

す日食。発生機会が少なく、7分以内しか継続しないと言います。

「天測歴」には、以下原文ママ

＜日月食・日面経過

51、2012年には日食が2回、月食が1回、および、金星の日面通過が1回ある。

52、日食は、朔（さく）（新月）のころ月が太陽と観測者との中間に入って太陽面を隠すために生じる現象で、太陽面が全部欠けて見える場合を皆既食、中央が暗黒になり周りだけが輝く場合を金環食、一部分欠けて見える場合を部分食という。皆既食と金環食は、月の本影によって覆われる地域においてだけ見え、部分食は、半影内の地域においてみられる。従って、月食の始めと終わり、種類、食分などは各地域によって異なる。＞

今回の皆既日食は「天測歴」によると、どうやら豪州から南米西岸までの南太平洋の地域限定で見られる天体ショーでした。

それにしても、不思議です。本船には21名の乗組員がいますが、7分間の短い天体ショーを見たのは著者を含めて4名だけ。近くに船がいたとしても、その船と皆既日食との間に雲などがあれば分からないし。自室からデジカメを持参し、撮影を試みました。船が揺れていたためか、それとも、著者の撮影技術力の低さか、うまく撮れませんでした。

6-16) 125次航海

乗船したばかりの前航（124次航海）では、ひやひや心配ばかりで気持ちに余裕のない航海でした。が、今回は少し余裕がありました。同じ積地に行くので、安心しております。面白かったのは、前回 Dalrymple Bay 港を

出帆した直後なのに、現地船舶代理店と営業（東京）との間で次(今航)の Dalrymple Bay 港入港に関して e-mail で開始し、本船に CC を入れているので、そのやり取りが時々刻々と受信できたのです。

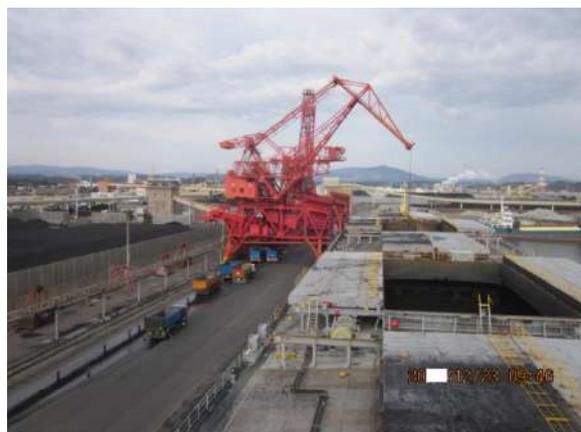
一方、問題もありました。問題とは清水管理でした。前回は Dalrymple Bay 港に到着した翌日に着棧しました。だから、今回も同じように予想していたら、Dalrymple Bay 港で 11 日間の沖待ち。揚地である小名浜港(福島県)においても 11 日間の待機時間(港の入港待ち)があったので、本船の清水、つまり、飲料水がなくなり、雑用水も残り少なくなったのです。最後は、薬剤を投与して雑用水を飲料水として使用しました。ちなみに、飲料水も雑用水も港で補給することもできます。航海中、造水器という水を作る機械があつて、船で造った水を雑用水タンクに入れています。(清水は多く持ちすぎると、運ぶ貨物量がその分少なくなる弊害もあります)

グレート・バリア・リーフの沖(北側)に広がる珊瑚海には、ダイヤモンド海峡があります。前航も今航も本船はそこを往復したので、著者は喜びました。海図 Aus 614 によると、海峡の西側に Diamond Islets、West Diamond Islet、Central Diamond Islet、East Diamond Islet South Islet と時計回りに珊瑚礁が丸く連なります。

East Diamond Islet に灯台があり、C 号はその灯台を頼りに走りました。海峡のすぐ東側には、別の珊瑚礁 Lihou Reef があります。

ダイヤモンド海峡は、南緯 17 度 30 分 東経 151 度 15 分にあります。水深は 600m と深いです。

小名浜港では、予定通り 10 日間停泊していました。東日本大震災の傷跡が、港や町のあちこちにまだ残っていました。しかし、そこで一生懸命仕事をされている方々と接してみると、逆にこちらが勇気付けられました。



小名浜での石炭荷役

6-17) 誕生日

Dalrymple Bay で積んだ石炭の揚地である小名浜入港の前日である 12 月 18 日は、15 回目の誕生日でした。誕生日とは、本船 C 号のことです。本船は、三井造船所玉野 第 1457 番船として生まれました。

Keel laid : 起工日 19XX 年 8 月 7 日

Launched : 進水式 19XX 年 12 月 18 日

Delivered : 就航式 19XX 年 4 月 1 日

人間に例えると、8 月 7 日が受胎、12 月 18 日が出産、親元を離れるのが翌年 4 月 1 日といったところです。C 号は、おばあちゃんになります。もともとの船名は、C 号ではありませんでした。購入した後、C 号に名前を改めました。

著者は、商船学校時代から多くの船に乗ってきました。その中で、三井造船玉野で建造された船に乗ったのは、本船を含めて 2 隻だけです。もう 1 隻は、学内練習船「深江丸」でした。船乗りとしての基本を教えてもらった船です。著者は『歴史を紀行する』司馬遼太郎著 文春文庫の言葉を借りると「桃太郎の末裔たちの国」で生まれたので、C 号・深江丸と著者とは同郷です。

本船では、初めて船長として乗船しているので、船長としてのイロハを、C 号から教えてもらっています。C 号が誕生した 19XX 年後半は、私が商船学校を卒業して船乗り社会

に入った年でもあります。あれから、十数年。。長いようで、短い年月でした。いろいろなことがありました。ただ、ひたすら自分の描いた夢「船長になる」に向かって走ってきた十数年でした。

6-18) 南北航路

日本と豪州など南北に結ぶ航路を南北航路と言います。古くから我々船乗りにとって、人気のある航路です。理由は、時刻改正がない、仕出港と仕向地との季節が逆だからです。別の理由もあります。南下する時、北極星を背にして、針路上に南十字星とそのすぐ隣にあるケンタウルス座を目印にして、夜、船を進めることができます。逆に、北上する時、南十字星とケンタウルス座を背にして、北極星、北斗七星、カシオペイア座を探して航海をすることができます。星の方向に進めば、日本（目的地）の近くまで帰り着くことができます。

夜であれば、宝石箱をひっくり返したような星空に酔うことができ、絶えず心身を清めているような気がします。話が脱線しますが、神社や神聖な山へ行くと、同じような経験をすることが、著者にはあります。船に乗って航海することが、著者にとってはパワー・スポットを巡るのと同じなのです。

6-19) 自然遺産

グレート・バリア・リーフは、1981年登録の自然遺産です。オーストラリア大陸北東部、クイーンズランド州東岸の沖合に、長さ約2,000kmにわたり連なる世界最大の珊瑚礁です。このエリアには、コーラル・ケイと呼ばれる珊瑚でできた島や、地殻変動によって生まれた島など多くの島が点在しています。コバルトブルーの美しい海には、数百種類にのぼる珊瑚はもちろん、多種多様な魚や軟体動物、さらには、クジラやジュゴン、ウミガ

メなどが住んでおり、まさに海洋生物の楽園となっています。

写真などを見ると、必ず美しい島と珊瑚礁とが隣接して写っています。海底の珊瑚礁がそのまま陸上に派生して島になったのか、その逆で、島の緑や花たちが海底へと進出して珊瑚となったのか？ 生物は海から進化して陸上へ上がってきたという学説を納得することができます。海と植物（珊瑚）と陸の植物（多分、マングローブだと思います）とが隣接して、境界があいまいだからです。そう言えば、子供の頃に読んだ絵本、桃太郎が鬼退治をした後に宝物を家に持ち帰るのですが、その宝の中に珊瑚もあったと思います。桃太郎も鬼たちも、しかし、この世界最大の珊瑚礁は知らないだろうなあ。よし！天国で会ったら、自慢してやろう！！

6-20) Abbot Point

小名浜で石炭全量揚げの後に向かったのは豪州 Abbot Point でした。1月9日は、久しぶりに操船することになりました。普段は、航海士と甲板手の2名体制で行っています。その2名に著者が追加で飛び入り参加するのです。

まず、珊瑚海から Abbot Point へ向かうには、途中のグレート・バリア・リーフを横切らないといけません。本船クラスの石炭船は、荷物を積んでいない空船航海でも喫水 6.5m、石炭を満載している積荷航海では、喫水 12.82m となります。従って、グレート・バリア・リーフを横切る海域（場所）が限られてきます。前航、前々航の Dalrymple Bay 往復では、同じくリーフを横切ったのですが、リーフ入口においてヘリコプターで飛んできた水先人が乗船しました。水先人の指揮の下、本船は航海したので著者は安心できました。今回は、Palm Passage を通峡しました。その後、豪州大陸に沿って南下しました。



ヘリコプターによる水先人の乗下船

しかし、今回は著者が本船を Abbot Point 港外まで持って行かないといけないのです。当日零時ごろ起床して、当直の二等航海士に周囲の（船舶）状況を確認してから部屋でコーヒーをまず飲みました。それから、1時頃に登橋しリーフに入って行きました。レーダーで入り口にある Pith Reef 灯台を捉えて、その灯台で船の現在位置を求めました。1時間ほど走ると、Pith Reef 灯台の灯光が見えてきて、同時にレーダー上で次の Rib Reef 灯台を捉えます。その2つの灯台から船位を求めてリーフを横切ることができました。

リーフを横切っている最中に、リーフ内からこちらへ向かってくる船舶は1隻だけだったので、助かりました。リーフ内へ入ると、リーフ内（リーフと豪州大陸との間）を北西から南東方向へ、シドニーやブリスベンへと向かう船と4時間ほど併走しました。併走している間、朝3時から日出まで夜空が見事でした。まず、本船の船尾側（北）には北斗七星がひしゃくを逆さにして水平線上に横たわっていました。日本で育った著者には、いつもひしゃくを逆さにして水平線上に寝そべるこの北斗七星が、幻想的に見えます。（日本の緯度だと、ひしゃくは、いつも天空高く、水平線上にはならないからです）西の空には、間もなく沈もうとしているオリオン

座。頭上には、しし座とおとめ座。東の空には、少し夜が明けようとしているのですが、さそり座の頭部分と心臓部の星アンタレス、その横には新月に近い月。その月がダイヤモンドを下、貴金属製の輪を上（つまり、上下逆さま。Uの字）にした指輪のように輝いていました。そして、これから向かう Abbot Point、つまり、南の方向には南十字星とケンタウルス座が本船を出迎えていました。

日出後、目的地である Abbot Point へ向かうため、針路を南東から南へと変えました。VHF で Abbot Point 港の管制官を呼び、本船が錨泊する場所を尋ねると、「どこでも好きなところへ錨を落として OK」との返事。と言うことで、好きなところで錨泊し、本船の番まで待機することにしました。「こういう天気の良い日は、きっと何か良いことが起こるに違いない」と思っていると、さっそく会社から重大な連絡が来ました。



Abbot Point での石炭荷役

ところで、錨地で待機していた時、ずっと気になっている山がありました。Abbot Point から北西へ位置する Station Hill（標高 723 m）です。錨泊している本船の方向からだと、ちょうど台形の形をしています。気になったので、Station を辞書で調べてみました。①駅、停留所 ②署、局など ③④⑤はいずれも省略 ⑥（鉦）立抗などの中の広

場、置き場、(豪、ニュー) 建物、土地を含む
牧場、農場 ⑦省略 多分、⑥だと思いました。
そうすると、あの山は牧場か農場ですね。
Station Hill らの山々の向こう (南西方向)
には、あの有名な大鑽井盆地 (だいさんせい)
が広がります。次回、Abbot Point に寄港し
たら豪州人に聞いてみよう！



Station Hill

6-21) 重大な連絡

それは、1 通の電子メールでした。「本船〇〇のため、乗組員の交代が次の内地 (熊本県苓北) で計画されていることは、秘密にしておくように」

著者「えー!!! 早く知らせた方が下船する乗組員たちが喜ぶと思って知らせたばかりなのに。。。 どうしよう! ?」早速、機関長に相談しました。(機関長は 68 才の大ベテランです) 機関長「それはキャプテン、まずかったですなあ。正直に会社に謝っては?」と言うことで、会社に謝罪の電話をしました。著者「C 号の船長です。海務部長に代わって下さい。」

海務部長「なにっ〜。もうしゃべったのか。あちゃ〜。しょうがないなあ、次から、全てが決まるまで、乗組員にはしばらく黙っておくようにな!」

著者「はい、次から気をつけます。申し訳ございませんでした。」

乗組員交代は、本船に乗船してからこれで 2 回目となります。前回は、早めに知らせたのですが問題にはならなかったのです。今回、問題となったのは、「〇〇のため」だったからです。

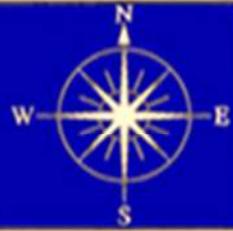
〇〇とは、メールによると 1 月 18 日に決定するそうです。1 月 18 日は、本船が Abbot Point を出帆してからなので、それが決まるまで待つことにしました。その上、決まった後も当分の間「〇〇」のことは、機関長と著者の 2 人だけの秘密にしなければならない重要事項だったのです。



ダイヤモンド海峡の概略位置

(次号へつづく)

北から南から



富山高等専門学校

○「洋上救命講習」を実施

7月21日(金)「洋上救命講習」を実施しました。本講習は洋上での救命技術を体得することを目的に行っており、商船学科学生38名は5班に分かれ、着衣のまま救命胴衣を装着して練習船「若潮丸」のデッキから一人ずつ飛び込みました。学生たちはライフラフトを目指して泳ぎ、一旦筏に乗り込んだ後に再び若潮丸に泳いで戻り、船尾側に設置された縄梯子を登りました。

また、午後からは例年通り遭難信号の打ち上げ実習を行いました。



ライフラフトに乗る学生らの様子



若潮丸に戻る学生ら



停泊している若潮丸



飛び込みの様子

○ 夏季オープンキャンパス

8月4日(金)～6日(日)の3日間、オープンキャンパスを実施しました。

商船学科では、昨年度と同様に8月4日(木)に本校施設の臨海実習場や練習船若潮丸を訪れ、ブリッジや機関室を見学した後、チャートワークを行いました。また5日(金)・6日(土)は「若潮丸に乗って船、海、港を見てみよう」と題して、本校練習船に乗船し、出入港時および航海中の海や港を見学する体験航海を実施しました。参加者は船の運航の様子や機器を実際に見学し、乗組員、商船学科教員、補助学生と触れ合いなが

ら、船員の業務、船員として働くことの魅力について、理解を深めました。



乗船する参加者



船橋で説明を受ける参加者



機関制御室で説明を受ける参加者



教室での講座



チャートワークの様子



機関室見学の様子



学科説明会



講座の説明(臨海実習場)

○ 商船学科 4 年生の乗船実習と後学期授業開始

商船学科 4 年生は、10 月 1 日（日）に日本丸

と銀河丸に分かれて乗船しました。

今回の実習は5ヶ月間の乗船となるため長期であることに学生も期待と不安の両方の気持ちを抱きながら準備を進めていました。不安もある中ではありましたが元気な姿で乗船する様子が見られました。実習はもとより船内生活や休暇での過ごし方も含めて得難い経験を積んでいくものと期待しております。下船後にはいよいよ就職活動も本格化します。

また本校においても10月2日(月)には専攻科海事システム工学専攻の入学式があり、2名の学生が入学し、校長先生への誓いの言葉を述べました。

本科生も後学期の授業が始まりました。10月の海技士をはじめ、これからの将来に向けた勉強と資格取得等に励んでおります。5年生は残り半年の席上過程にて授業と卒業研究の両方に取り組んでいくことになります。

(教務主事補 商船学科 経田僚昭)

<学生会活動>

○ 海浜清掃

10月4日(水)に、学生会及び美化委員会が主催して、射水キャンパスの電子情報工学科、国際ビジネス学科、商船学科の各学科2年生による海浜清掃を行いました。各クラス、ゴミ袋がいっぱいになるまでゴミを拾い、日頃お世話になっている学校周辺をきれいにすることができました。収集したゴミは、最後に学生会が分別を確認して処分しました。



○ 秋季スポーツ大会について

10月17日(火)に学生会主催の秋季スポーツ大会を実施しました。借り物競走などの新しい試みもあり、秋空のもと学生はのびのびと楽しんでいる様子でした。



<課外活動>

○ 令和5年度 高等学校総合体育大会

7月22日(土)から8月21日(月)の期間に開催された全国高等学校総合体育大会に、ヨット、卓球女子、陸上男子、柔道女子の競技で学生が出場しました。

○ 第58回北陸地区高等専門学校体育大会

6月24日(土)から7月9日(日)の日程で、第58回北陸地区高等専門学校体育大会が開催されました。今回は福井工業高専が主管校で実施されました。野球、テニス、卓球、水泳、柔道、ラグビーは本校が主管で実施されました。日頃の練習の成果を発揮し、多くの学生が全国高等専門学校体育大会への出場を決めました。

○ 第58回全国高等専門学校体育大会

令和5年8月19日～9月1日の日程で、第58回全国高専体育大会が関東信越地区で開催されました。多くの学生が日頃の練習成果を発揮し、好成績を収めました。その一部を紹介します。(1位から3位のみを掲載)

競技	種目	順位
テニス	男子ダブルス	1位
	男子シングルス	1位

	男子団体戦	3位
水泳	女子 100m 背泳ぎ	3位
	女子 200m 個人メドレー	1位
柔道	女子無差別級	2位
陸上	男子円盤投	2位

○ 第33回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

10月14日(土)～15日(日)、サンドーム福井にて第34回全国高等専門学校プログラミングコンテスト本選が開催されました。

今回のテーマは「みせよっさの可能性」です。射水キャンパスからは競技部門で参加し、本選に出場しました。

○ 全国高等専門学校ロボットコンテスト 東海北陸地区大会

10月29日(日)、金沢工業大学にて全国高等専門学校ロボットコンテスト東海北陸地区大会が開催されました。

今回のテーマは「もぎもぎ! フルーツ GO ラウンド」です。本校からは、本郷キャンパスから2チーム、射水キャンパスから2チームの計4チームが出場しました。

大会当日は応援団も駆けつけ、観客席から選手らに熱い声援を贈りました。各チームの白熱した試合の結果、本郷Aチームは特別賞(東京エレクトロン株式会社)、本郷Bチームはアイデア賞、射水Aチームは特別賞(ローム株式会社)、射水Bチームは特別賞(マブチモーター株式会社)を受賞しました。

また、本郷Bチームは全国大会出場チームに選ばれました。



○ 高専英語プレゼンテーションコンテスト東海北陸地区大会

11月4日(土)に、第17回東海北陸地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストがオンラインにより実施されました。

射水キャンパスからは、国際ビジネス学科3年の谷口莉彩さんと、国際ビジネス学科4年の柿谷美里さんが出場しました。

学生たちは、夏休み前から原稿を書き、何度も修正したり発音練習をしたりしました。

当日は他のスピーカーや審査員のコメントから多くを学ぶことができました。

(学生主事補 商船学科 小林大)

「北斗会便り」

新春のお慶びを申し上げます。

この記事を書いている現在は11月ですが、令和5年はここ富山でも異常事象が続いた年でした。7、8月には連続45日間降水ゼロという記録や最高温度が38度を越える日が何日もあったり、11月に25度越えの夏日があったり、異常気象年でした。

その影響は、稲の作柄不良や品質低下、野菜等の農作物の不作などに表れるだけならまだしも、野生動物の行動にまでも現れました。

特に熊の行動範囲がこれまでよりも人里近くなり、富山でもテレビ等の報道等で紹介されたような人的被害も多く見られた年でした。

9月には39名の商船学科卒業生が北斗会に加入してくれました。新同窓生には社会での活躍に大いに期待したいものです。その加入を待つて、予てより計画していた10年分の富山高等専門学校卒業生銘板を完成させ資料室に追加掲示しました。

今回は残念な報告もあります。前新潟支部長であったN63期の小坂徳夫氏が10月に逝去されました。小坂氏には北斗会運営に関し多大なるご協力を頂きました。ご冥福をお祈りいたします。

北斗会支部からは嬉しい報告もありました。特に関東支部の横浜と関西支部の神戸の「カッターレース大会」参加報告では、レース結果より大いに盛り上がった反省会の様子が報告されました。

今年も是非継続して参加して盛り上がってほしいものです。また、この記事を読んで「カッターレース大会」に興味を待たれた同窓生は、関東支部および関西支部関係者に連絡されて是非ご参加ください。



本年も皆様にとりまして幸多い年でありますようお祈り申し上げます。

【「北斗会」事務局 佐々木 正】

一般レース・女子レース・小学生特別レース進行予定							
8:30	9:30	11:30	11:40	12:20	15:30	15:00	16:00
開会式	一般レース	小学生特別レース	女子レース	一般レース	女子	閉会	アトラクション
旗入	旗入	旗入	旗入	旗入	旗入	旗入	旗入

山下公園前面水域 荒天の場合は中止です。天候次第により、開催が変更される場合がございます。

鳥羽商船高等専門学校

○「高専ワイヤレス IoT コンテスト 2022」において 2 件表彰をいただきました

この度、「高専ワイヤレス IoT コンテスト：WiCON（ワイコン）2022」において、本校の提案したアイデア 2 件が表彰されました。

WiCON2022 は、全国の高等専門学校の学生を対象に、独創的なアイデアにより、地域における電波の有効利用促進に取り組み、地域課題の解決や新たなサービス創出を図るアイデアを公募し、採択された提案の技術実証とその成果の審査を行うコンテストとなります。WiCON2022 は、「電波有効利用技術部門」、「電波利用システム利活用部門」の 2 部門から構成されており、「電波利用システム利活用部門」において、本校の 2 件の提案が表彰されました。

【表彰内容】

○海の働き方改革大賞

チーム名：masuyama-lab.teichi

提案名：女性漁師のための小型定置網漁支援システム

○海象モニタリング活用大賞

チーム名：nakakoga-lab

提案名：LPWA 通信による海洋観測機を用いた英虞湾・的矢湾の 3 次元海象モニタリング



○ 外務省職員による「高校講座」を開催しました

この度、本科 2 年生の授業「一般基礎教育 2」にて、外務省の国際協力局気候変動課の首席事務官である大沼様に外務省の仕事内容についてご講演いただきました。

講座では、外務省がどういった仕事をしているかについてご説明いただいた後、次の 4 つのポイント、「世界に目を広げたきっかけは何か」、「世界から見た日本、異文化理解とコミュニケーションの重要性」、「自分の「常識」が常識でない場面や人々との出会い」、「16 歳という年齢で今できること、興味関心の幅を広げるためのアドバイス」についてご自身の経験を織り交ぜながらご講演いただきました。

本科 2 年生への講座の後、学生有志 10 名と座談会を行い、世界で仕事する上で学生時代に取り組んだことやどういったスキルが必要かなど、活発な質疑応答が行われました。

世界の最前線で活躍される外務省職員の方の話を聞いたことは、学生たちにとって、今後の進路を考えるうえで良い刺激となりました。



○ 令和 5 年度鳥羽商船高専連携協力会総会を開催しました

令和 5 年 6 月 23 日（金）に令和 5 年度鳥羽商船高専連携協力会総会を開催しました。

鳥羽商船高専連携協力会は、企業との技術交流や連携事業をより一層促進して社会で活躍

できる人材を育成し、地域社会の発展に寄与するとともに鳥羽商船高等専門学校の教育・研究の振興を図ることを目的として、令和4年4月に設立され、総会時点で115の団体・個人が入会しています。今回の総会は、対面とオンラインのいずれかで参加するハイブリッド方式にて開催され、オンラインで29名参加、対面で17名参加しました。

総会では、議題に先立ち菊川会長による挨拶、鳥羽市長による挨拶、鳥羽商船高等専門学校の現状について学校長より説明がありました。

その後事業報告、決算書、事業計画、就職支援セミナーの実施、連携協力会予算書について審議があり、承認されました。

総会終了後、学生による地域連携の事例紹介、情報交換会が行われ、会員同士、また学生、教職員を交えて活発な意見交換がなされました。

今後の連携協力会発展のため、会員の皆様とともに本校も尽力する所存です。



○ 第61回東海地区国立高等専門学校体育大会(剣道競技)で男子個人の部で優勝、男子団体の部で準優勝!



令和5年6月24日(土)、25日(日)に開催されました第61回東海地区国立高等専門学校体育大会(剣道競技)にて、鳥羽商船高等専門学校が男子個人の部で優勝、男子団体の部で準優勝しました。

○ 日本財団および株式会社商船三井による講演会を実施しました。

令和5年7月5日(水)に、日本財団が推進する無人運航船プロジェクト MEGURI 2040 に参画している株式会社商船三井の現役機関長、航海士の方から、商船学科1年生および商船学科2年生向けにご講演いただきました。

自律運航や今後の海運について、分かりやすくご説明いただきました。質疑応答では、1年生よりも2年生から積極的に質問があり、これらに対して丁寧にご回答いただきました。

学生にとっては、船舶職員として乗船することが普通と置いていところ、今後は乗船しないで自律運航や遠隔操船、陸上支援技術が発展すると聞き、船舶職員の業務が変化していくことへの驚きとともに、良い刺激になったように感じました。



○ 第58回全国商船高等専門学校漕艇大会にて、鳥羽商船Aチーム優勝!

令和5年7月17日(月・海の日)、大島丸棧橋付近特設コース(山口県周防大島町)にて、第58回全国商船高等専門学校漕艇大会が開催され、鳥羽商船高等専門学校のカッター部の学生らが出場しました。

当日は爽やかな晴天の下、全国5商船高専のチームが参加し、AチームとBチームに分かれて競い合いました。

各チームの選手は息を合わせ、力の限りオールを漕ぎ、日頃の練習の成果を発揮しました。熱戦の結果、鳥羽商船高専カッター部Aチームと広島商船高専カッター部Bチームが優勝しました。鳥羽商船高専カッター部Aチームは、昨年度の第57回も優勝し、2連覇となります。



○ 令和5年度大学・高専機能強化支援事業(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援)に本校の事業が採択されました

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による「令和5年度大学・高専機能強化支援事業(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援)」につきまして、本校の事業が採択されましたのでお知らせいたします。

本校の情報機械システム工学科に、高度情報工学コースを新設します。

高度情報工学コース(40名)は、高専MCCの情報工学を主専攻する特化型のデジタル分野に秀でた人材を育成します。

生成系AI、サイバーセキュリティ、DX、データサイエンス、UI/UX/デザインをはじめとして多様な項目を扱います。

学年縦断型のチーム編成として、1年時からPBLプロジェクトに参画させ、本校の特徴としてスマート水産・農業、GX、海事・海洋DXの課題に展開します。

インターンシップや地域や産業界と交わる環境を多様に提供し、IT産業技術者と交わることで主体的な思考の経験知を身に付け、新たな価値を創造する力、対立やジレンマに対処する力、責任ある行動をとる力と高度情報スキルを相乗させます。

○ 日本船長協会による講演会を実施しました

令和5年8月2日(水)に、日本船長協会の中川悟船長による商船学科1年生、2年生向けの講演を「船長、母校へ帰る」と題し、実施しました。

講演の冒頭では、本校校長よりご挨拶いただきました。その後、船員の魅力などをお話しいただき、将来の船舶について触れた際には、学生がどよめくなど刺激的な場面もありました。中川船長は本校の卒業生ということもあり、学生も身近に感じたと思います。

また、後輩へ向けたメッセージ性が強く、学生にとっては船員になるための良いアドバイスが受けられたと思います。



○ オープンキャンパスを実施しました(2023)

令和5年8月10日(木)及び8月11日(金・祝)に本校にてオープンキャンパスを実施しました。

午前の部、午後の部の2部制で開催し、延べ483名にご参加いただきました。最初にメディアホールにて学校紹介・全体説明を行い、終了後、商船学科希望者と情報機械シス

テム工学科希望者に分かれて、校内施設見学を行いました。

施設見学では、練習船鳥羽丸見学や、実習工場、プログラミング体験などを行っていただきました。施設見学後、希望者を対象に学寮体験を行い、今年度については、新たに潮騒会館食堂にて学食体験を実施しました。

参加者からは、教員や学生の説明を受けて、両学科とも好評なご意見をいただき、鳥羽商船高専を知っていただく良い機会となりました。たくさんのお申込・ご参加をいただきありがとうございました。



○ 令和5年度防災訓練を実施しました

令和5年8月3日(木)に令和5年度防災訓練を実施しました。今回の訓練は、紀伊半島沖の南海トラフ沿いでM9クラスの巨大地震が発生し、最大震度6強の揺れ、津波最短到達時間が11分(津波高1メートル)の想定で、全学生及び全教職員を含めた約700名が訓練に参加しました。

今回の訓練では、参加者は事前に配布された防災用ヘルメットを着用し、避難場所の高台に

あるグラウンドへ避難行動を行いました。

避難行動は迅速かつ安全に実施することができました。



○ 協同海運株式会社と鳥羽商船高等専門学校は包括連携協定を締結いたしました

令和5年9月7日(木)に協同海運株式会社と鳥羽商船高等専門学校は包括連携協定を締結いたしました。

本協定は、包括的な連携・協力のもと、各々の人的・知的資源を活用しながら地域の活性化と人材の育成に寄与することを目指すものです。



○ 伊勢市と鳥羽商船高等専門学校は包括連携協定を締結いたしました

令和5年9月7日(木)に伊勢市と鳥羽商船高等専門学校は包括連携協定を締結いたしました。本協定は、包括的な連携・協力のもと、産業・教育等の分野における地域課題に対応し、地域の活性化と人材の育成に寄与することを目指すものです。



○ 第 52 回商船学科卒業証書授与式並びに第 16 回専攻科(海事システム学専攻)修了証書授与式を挙行

令和 5 年 9 月 22 日 (金)、第 52 回商船学科卒業証書授与式と第 16 回専攻科(海事システム学専攻)修了証書授与式を挙行了しました。

授与式では、和泉校長から商船学科卒業生 28 名に卒業証書、専攻科(海事システム学専攻)修了生 4 名に修了証書と学位記が手渡され、激励の言葉が送られました。

式の最後には、白い制服姿の卒業生全員が二列に並び、「ごきげんよう」と挨拶。帽子を宙高く投げる伝統の別れのセレモニーを実施し、晴れ晴れとした姿で学び舎から巣立っていきました。



【 商船学科航海コース 齊心俊憲 記 】

○ 鳥羽商船高専は 2023 年 9 月の商船学科・専攻科卒業修了生をもって 7959 名を数えます。2024 年 3 月には、8000 名を超えることとなります。

海運業界とも船員の交流や災害時の協力などを含めて包括連携を締結するなど、5 つの商船高専の中で太平洋に直結して名古屋・四日市港を擁する輻輳海域である伊勢湾岸に位置する商船系高専として地域連携にも全学一致して努めています。

また、歴史・文化に恵まれ国立公園にある高専として「マリンリゾート・コアキャンパスの創成」を掲げて教職員一同、地域と世界で活躍する科学的思考を持つ高度技術者の育成に向けてさらなる努力と研鑽を重ねて参ります。

2025 年 3 月の就航をめざして練習船鳥羽丸の代船建造が進んでいます。

2023 年 10 月に船体推進性能試験、11 月には実物大船橋と機関制御室のモックアップ審査を完了しました。12 月にはプロペラ性能試験を経て起工式を迎えます。命名・進水式は年明けて 10 月初旬の予定です。

船体の長大化にあわせて浮棧橋も新たな姿を現します。システム操船及び自律操船技術を基盤とした自動運航システムを洋上のみならず陸上でも実習可能な設備を実装した我が国初の最先端の練習船「スマートシップ」としてこれからの我が国の海運を背負ってたつ学生諸賢の期待に応えます。

【 校長 和泉 充 記 】

鳥羽商船高専同窓会だより

秋冷の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。長い夏と短い秋が終わり一気に冬突入の気配です。

さて、令和 5 年 11 月 5 日 (日) 母校百周年記念館横の庭園において、高専制度創設 60 周年を記念して植樹式が挙行されました。

高専 60 周年を節目として、高専が未来に向けてますます成長することを祈念し、記念樹を植樹するイベント「高専の森」を全高専にて実施しています。

植樹する樹木は鳥羽市の木に指定されている「ヤマトタチバナ」です。

植樹式では、和泉校長による挨拶後、鈴木英敬衆議院議員、赤池誠章参議院議員、中村欣一郎鳥羽市長、全船協広重康成会長から祝辞をいただきました。

令和7年春に新しい「鳥羽丸」が竣工します。海国日本を支える人材の育成と近々予想される東南海地震に備えての災害支援船としての役割、災害支援物資の基地として大型浮棧橋への新替、又令和7年にIT（情報技術）に特化した高度情報工学コースの新設などのお話をされました。

植樹式には、和泉校長を始め、鈴木英敬衆議院議員、赤池誠章参議院議員、吉川ゆうみ参議院議員（代理秘書）、江崎典宏高専機構本部理事、中村欣一郎鳥羽市長、野村保夫三重県議会議員、広重康成全船協会長、酒迎和成全船協理事、鳥羽商船高専連携協力会から菊川厚会長、西村譲治副会長、同窓会から菅沼延之会長、江崎事務局長が出席し、「ヤマトタチバナ」の植樹（土入れ）が行われました。

また、母校在校生から寮生会2名、学生会2名も参加していました。最後に、江崎高専機構本部理事の謝辞が述べられました。

100周年記念館横の「高専の森」は元気な木々が生き茂り近藤真琴翁の記念碑、山口誓子の句の100周年記念碑、そして平成30年に建立した皇太子殿下行啓記念碑を益々際立たせています。

これから寒い冬に向かいますが皆様のお体充分ご自愛を祈念いたします。

【 同窓会事務局長 江崎隆夫 】



広島商船高等専門学校

○ 日本で初となる実運航船を用いたサイバー攻撃への船舶防御演習を実施

令和5年7月1日(土)、2日(日)、5日(水)、国立高等専門学校機構5高専(広島商船高専、仙台高専、高知高専、木更津高専、石川高専)は、一般社団法人日本船用工業会と株式会社ラックと共同で、「海事サイバーセキュリティセミナー2023」を本校で開催しました。

当セミナーは、専門家が少ない海事サイバーセキュリティ人材を育成する目的で開催し、国立高等専門学校機構が、業界団体と民間企業と共同で実施したものです。

日本国内で実運航船を用いたサイバー攻撃への船舶防御演習の実施は初めての取り組みとなります。

全国から情報学科・商船学科の学生が38名(函館高専、一関高専、仙台高専、木更津高専、富山高専、石川高専、和歌山高専、香川高専、広島商船高専、熊本高専)、一般社団法人日本船用工業会会員企業15社30名が集まり、講義・演習・船上実習を実施しました。

○ 商船学科公開講座開講

令和5年8月5日(土)、小・中学生を対象とした「商船学科公開講座～あつまれ船長・機関長!2023～」を開講し、県内外の小・中学生と保護者が参加しました。練習船広島丸に乗船し、エンジン始動見学、航海、操船・操舵を体験しました。

受講者は、暑い中、各日課に真剣に取り組む、海や船への関心を深める機会となりました。



○ 本科卒業証書授与式、専攻科修了式を挙

9月25日(月)、本校第二体育館において、航海コース15名、機関コース24名の卒業証書授与式が挙



校長から「本日本校を巣立つ皆さんが、今後さらに弛まぬ努力と成長を重ね、おおいに活躍することを信じております。」と激励の言葉が

ありました。

式の最後には乗船服に身を包んだ卒業生が、「ごきげんよう」と挨拶し、来賓や保護者に見送られ、学舎を巣立っていきました。

9月15日(金)には、本校第二会議室にて専攻科生2名の海事システム工学専攻修了式を挙行了しました。

○ 次世代海洋人材育成事業「広島丸体験航海・一般公開及び工作教室」を実施

9月23日(土)、24日(日)、呉市海事歴史科学館で練習船体験航海・一般公開及び工作教室を実施しました。



当日は天候にも恵まれ、呉市内の小中学生及びその保護者、呉海洋少年団その他一般の皆様にご来場いただき、科学のおもしろさ、海・船への親しみをもっただけのイベントとなりました。この事業は次世代海洋人材育成事業の一環で、本校と呉海事振興会が主催し、中国運輸局呉海事事務所、呉市後援、その他中国地区内航船員対策協議会及び本校校友会をはじめ関係団体にご協力いただき実施しました。

○ 教員による授業参観を実施

10月5日(木)に教員による授業参観を実施しました。この取組みは本年度採用された新任教員の授業を参観するもので、教員相互間による意見交換等を行うことで今後の教育活動に生かしてもらうことを目的として行いました。授業を実施した側、授業を見学した側の両方においてよい刺激になったようです。

○ 学生表彰

7月8日(土)、9日(日)に開催された第56回全国高等専門学校サッカー選手権大会中国地区予選において、商船学科5年二岡学生が優秀選手賞に選ばれましたので表彰を行いました。



○ 薬物乱用防止キャンペーン「ダメ。ゼッタイ」普及啓発活動

10月11日(水)に、大崎上島ライオンズクラブ・大崎上島町青少年健全育成協議会及び本校学生会によって、百段階段を登って登校してくる学生に対し、薬物乱用防止啓発うちわの配付を行いました。



○ 絵画の寄贈

10月17日(火)に作者のみやざきすうじ氏と寄贈者の岡本悦生氏が来校され、絵画の前で写真撮影を行いました。

『慶良間レクイエム』全11作の10作目である『Sanctus: 聖なるかな』を寄贈いただき、本校の図書館に展示しています。



○ 高専ロボコン 2023 中国地区大会優勝 全国大会出場決定

10月22日(日)高専ロボコン2023中国地区大会が呉市総合体育館で開催され、本校からはAチーム(チーム名:風鈴華山)とBチーム(チーム名:跳躍踏破)が出場しました。



今回の競技課題は「もぎもぎ!フルーツGOラウンド」という時間内に障害物を乗り越え、フルーツを収穫・運搬し得点を競うという競技でした。

広島商船Aチームは、決勝戦にて呉高専Aチームとの熱戦を制し、中国地区大会優勝を収めました。

11月26日(日)には東京・両国国技館で開催される全国大会に出場します。

【広島商船出場チーム 大会結果】

中国地区大会優勝・全国大会出場:Aチーム
特別賞(本田技研工業株式会社):Bチーム

【商船学科 小林 豪 記】

校 友 会

10月29日(日)、校友会合同慰霊祭を4年ぶりに開催いたしました。

遺族28名、校友等と合わせて60名ほどの参加で執り行われました。



広島商船高等専門学校 校友会

月水金 9:00~15:00

TEL 0846-65-3899

E-mail: koyukai@hiroshima-cmt.ac.jp

大島商船高等専門学校

令和5年7月から令和5年10月にかけて行われた主な式典、教育活動、地域連携活動などを中心に紹介します。

1. 式典・催事

○高専制度創設60周年記念植樹式挙

令和5年7月25日(火)、学寮地区商船会館前において、藤本浄孝周防大島町長および江良正和奨学後援会長を来賓にお迎えし、高専制度創設60周年記念植樹式を挙りました。この植樹式は、令和4年度に高専制度が60周年を迎えたことを記念し、全国の高専で植樹を実施するイベント「高専の森」の一環であり、高専60周年を節目として未来に向けて高専が成長することを祈るとともに、持続可能な開発目標(SDGs)の実現と次の世代の高専生の成長を「高専の森」が見守るというメッセージを込めたものです。当日は、周防大島町が実施するアロハキャンペーンへの協力で本校も「アロハビズ」を実施していることから、アロハシャツを着用し、「瀬戸内のハワイ」の雰囲気の中、式典を行いました。

式典では、古莊雅生校長から、今回植樹を行う「ベニシダレモミジ」の説明を交えた挨拶があり、続けて、藤本周防大島町長からご祝辞をいただき、柳居俊学山口県会議長からいただいたメッセージを本校総務課長が代読した後、鍬入れを行いました。



(後列左から)石原総務主事、小沢事務部長、藤井経勉主事、幸田良勉主事、毛利総務課長
(前列左から)藤本周防大島町長、古莊校長、江良奨学後援会長

○令和5年度卒業証書・専攻科修了証書授与式挙

令和5年9月22日(金)、令和5年度卒業証書・専攻科修了証書授与式を挙りました。今年度の卒業生・修了生は、本科商船学科34名(航海コース19名、機関コース15名)、専攻科海洋交通システム学専攻1名でした。

式終了後、卒業生は、帆船の出航時に行われる儀式である登檣礼(とうしょうれい)や登舷礼(とうげんれい)にならって「ごきげんよう」と3回叫び、帽子を高く投げ上げて、将来への活躍を誓いました。



登檣礼(とうしょうれい)、登舷礼(とうげんれい)

○令和5年度専攻科入学式挙

令和5年10月2日(月)、令和5年度専攻科海洋交通システム学専攻の入学式を挙りました。

式辞で古莊校長から、「計画性のある自己実現に向かった行動計画に基づく進路目標を設定し、研究に対する論理的な基盤を一步ずつ着実に踏みしめながら取り組み、自分自身が手応えを感じられる創造的知識と革新的技術を着実に修得することを期待しています。」と激励の言葉がありました。

続いて専攻科新入生が、「将来有為な海事技術者となるため、学則を守り心身を鍛え学業に励むことを誓います。」と宣誓しました。

2. 教育活動

○1年生を対象に、読書活動「ライぶらり」を実施

令和5年7月20日(木)、山口県立山口図書館から指導主事をお迎えし、1年生を対象に、読書活動「ライぶらり」を行いました。

「ライぶらり」は、2018年に山口県立山口図書館内の山口県子ども読書センターにおいて考案された、図書館内の本を選び、なぜその本を選んだのかを紹介し、本を通しての交流を行う全員参加型の読書活動です。

今年度、本校は実践サポート校に認定されており、後期を含めた継続的な取組みにより、学生の読書の幅を広げ、自主的な読書活動を促すとともに、図書館の自主的な活用を促進する機会になることが期待されます。

○ 台湾・国立高雄科技大学(NKUST)との国際交流

令和5年7月11日(火)から7月17日(月)の7日間、台湾の国立高雄科技大学(NKUST)から学生15名と引率教員2名の計17名が来日し、本校の学生と交流しました。交流プログラムは、レーザー加工機を使用した実験実習や大島丸による航海実習を行ったほか、周防大島町役場に訪問し、役場職員の方から周防大島町の歴史・文化等の説明を受けました。また、日本文化の体験として茶道の時間を設けました。

7月15日(土)からは本校での交流プログラムに加えて、広島市平和記念資料館や岩国市の名勝などを見学しました。

NKUSTの学生たちは、興味を持って説明を聞き、日本の文化及び平和に対する理解を深めることができました。最後に、NKUSTの学生は、「また大島商船で学生の皆さんと交流できることを願っています。」と感想を述べ、非常に満足した様子でした。

○ 商船学科2年生に海上保安庁 第六管区海上保安本部海洋情報部による出前授業の実施

商船学科2年生を対象に、海上保安庁 第六管区海上保安本部海洋情報部による出前授業が令和5年10月2日(月)に行われました。

海洋情報部は、測量船や各種の海洋観測機器を用いて様々な海洋調査を行い、海上防災や海洋環境保全、船舶の安全航行のために、国民に多種多様な貴重な情報を提供されてい

ます。

講義内容は、「海上保安庁の紹介」、「海図を作る海洋情報部」、「海図の役割」、「海を調査すること」と続き、次の「未知の地形を調査し海図を作る」で、西ノ島の噴火・拡大時における海洋調査について動画を用いて解説していただきました。最後に、海技士にとって重要となる「国際海洋法条約と海図」について解説していただきました。

3. 地域連携活動、公開講座など

○ 本校の実習艇「すばる」を用いて「周防大島海洋環境クルーズ」を実施

令和5年7月26日(水)に本校の実習艇「すばる」を用いて、「周防大島海洋環境クルーズ」が実施されました。

このクルーズは「屋代島さとうみネットワーク」の主催、山口きらめき財団の助成によるもので、周防大島の近隣に居住する方々に、瀬戸内海の海洋環境を船の上から間近に見て、これからの海洋環境保全のことを考えて頂くイベントです。今回の参加者は、10~12歳の小学生3名を含む11名でした。当日は天候に恵まれ、猛暑日ではありましたが、海上では海風が心地よい状況でした。

○ 大島商船高専練習船「大島丸」夏休み体験航海開催

令和5年8月24日(木)から25日(金)にかけて海洋立国懇話会主催、本校共催で本校練習船大島丸による体験航海を実施しました。小学4年生から中学3年生までの親子が福岡県北九州市から山口県周南市まで乗船しました。普段は見ることでできない操舵室や機関室の見学、救命胴衣を装着する訓練や海洋環境や自動化船に関する講義が行われ、参加者は大変興味深く参加していました。

今回は1泊2日の航海ということで、船内で宿泊をするといった貴重な体験ができたのではないかと思います。参加者からは「海の大切さを知ることができた」や「船の仕事に興味を持った」という声を聴くことができました。

○ 公開講座「micro:bit(マイクロビット)で

プログラミング入門！ with コンピュータ部」の開催

令和5年8月17日（木）、技術支援センターとコンピュータ部の学生による公開講座「micro:bit（マイクロビット）でプログラミング入門！ with コンピュータ部」を開催しました。この講座は小学5年生～中学生を対象に、技術支援センター職員とコンピュータ部の学生が講師となって実施し、今年度は、micro:bitの保護カバーの作成とプログラミングを体験してもらいました。

4. 学校PR活動, クラブ活動の表彰など

○ 第58回全国商船高等専門学校漕艇大会の開催

令和5年7月17日（月）、大島丸棧橋付近特設コースで第58回全国商船高等専門学校漕艇大会を開催しました。

当日は爽やかな晴天の下、全国5商船系高専のチームが参加し、AチームとBチームに分かれて競い合いました。各チームの選手は息を合わせ、力の限りオールを漕ぎ、日頃の練習の成果を発揮しました。熱戦の結果、鳥羽商船高専カッター部Aチームと広島商船高専カッター部Bチームが優勝しました。



当日の様子

○ 出張オープンキャンパス in 北九州・小倉を開催

令和5年8月23日（水）、北九州市において出張オープンキャンパスを開催し、中学生とその保護者にご参加いただきました。

3月に竣工したばかりの4代目練習船大島丸を活用したこのイベントでは、体験航海や船内見学のほか、船内の学生ホールや電気工作室等で各学科の講座を体験していただきま

した。

船内での体験を通じて、本校への理解を深め、また、高専の授業への関心も高めていただけたようです。

○ 山口県内3高専合同学校説明会を開催

令和5年8月26日（土）、岩国市民文化会館において、山口県内3高専合同学校説明会を開催しました。

これは、中学生や保護者を対象とした説明会を、大島商船高専・徳山工業高専・宇部工業高専の県内3高専が県内3会場で行っているもので、岩国会場は本校の主催で説明会を開催しました。当日は、近隣中学校だけでなく、県外など遠方の中学校の生徒さんにもご参加いただきました。

説明会では高専制度の説明や各校の紹介、商船学科の前畑航平講師による「地文航法」の模擬授業を行いました。また、別室で各校の特色を生かした展示や、個別相談に対応しました。

約2時間の説明会ででしたが、それぞれの高専や学科の特徴について、参加者のみなさまには理解を深めていただけたようです。

○ 第34回全国高等専門学校プログラミングコンテストで特別賞を受賞

令和5年10月14日（土）・15日（日）、サンドーム福井（福井県越前市）で開催された第34回全国高等専門学校プログラミングコンテストにおいて、本校が、課題部門及び自由部門それぞれで特別賞を受賞しました。

○ 高専ロボコン2023中国地区大会でデザイン賞・特別賞受賞

令和5年10月22日（日）、シシンヨーオークアリーナ（呉市総合体育館）において、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2023中国地区大会が開催されました。本校Bチーム【パッケンギョ】は、柳井の民芸品である『金魚ちょうちん』をモチーフにした可愛いデザインなどが評価され、「デザイン賞」を受賞しました。また、本校Aチーム【とれたて！ジャム工房】は「特別賞（田中金属賞）」を受賞しました。

◎ おわりに

本校 HP が令和 5 年 9 月 29 日（金）にリニューアルされ、以前と比較してデザインも良くなり、各記事にアクセスしやすくなっておりますので、まだ見られていない方は是非閲覧をお願いいたします。

それでは、皆様におかれましても、健やかに過ごされるようお祈りいたします。



▲学校 HP

【商船学科 渡邊 武 記】

小松会だより

○ 令和 5 年度 慰霊祭 及び 理事会・総会の開催

令和 5 年 9 月 21 日に慰霊祭および大島商船高専同窓会理事会・総会、その後懇親会が開催されました。

慰霊祭では、今年度は 19 名を合祀させていただきました。理事会では各支部における運営方法を中心に活発な意見が交換されました。総会におきましては、理事会での決定事項を確認し滞りなく賛成多数で可決されました。

最後、懇親会では久しぶりに会う仲間同士の情報交換や今年度合祀された方を偲んでお話をされていました。



慰霊祭の様子(会長挨拶)



慰霊祭の様子(参列者集合写真)



同窓会総会・懇親会集合写真

○ 阪神小松会総会、懇親会開催

2023 年 10 月 28 日 17:30 から、神戸市「つねさ」において、阪神小松会の総会、懇親会が開催されました。

阪神小松会は E66 期の藤津匡章会長のリーダーシップと気配りのもと、ゴルフ、山歩き、懇親会など活発に活動している支部です。

会長の挨拶に続き、議事に入りましたが、主なものとしては会長交代がありました。藤津さんから N71 期の高濱洋嘉さんに交代されました。藤津さん、お疲れさまでした。高濱さん、よろしく願いいたします。

その後は、同窓会長挨拶、事務局からの近況報告があり、続く懇親会では、おいしい料理と、お酒をいただきながら、昔話や近況を話し合い、楽しいひと時を過ごしました。



阪神小松会総会、懇親会集合写真

○ 関門小松会の活動報告

関門小松会では以下の活動が実施されました。

(1) 新大島丸内覧会および懇親会の実施

2023年8月22日に大島丸が北九州・小倉港に体験航海イベントで入港するのに合わせて、同窓生を対象に新しくなった大島丸の内覧会と、その後アートホテル小倉ニュータガワにて懇親会を実施しました。



関門小松会懇親会(8月)集合写真

(2) 2023年関門小松会総会&忘年懇親会の実施

2023年11月17日18:30から、北九州市小倉北区「小倉リーセントホテル」において、関門小松会の総会および忘年懇親会が開催されました。



関門小松会総会&忘年懇親会(11月)集合写真

○ 鹿児島小松会の活動報告

鹿児島小松会では積極的に活動がされております。以下に実施状況についてまとめています。

(1) ゴルフコンペの実施

令和5年10月6日(金)大島商船高専同窓会小松会鹿児島支部ゴルフコンペを「湯の浦カントリー倶楽部」で開催されました。



(2) 「霧島丸」遭難慰霊碑の美化清掃活動の実施

令和5年11月12日(日)鹿児島商船学校練習船「霧島丸」遭難慰霊碑の美化清掃活動を行いました。



(3) 大島商船高専同窓会小松会鹿児島支部忘年会の実施

令和5年12月3日(日)、鹿児島支部小松会の忘年会を鹿児島市内で開催いたしました。



【同窓会理事:山口伸弥】

弓削商船高等専門学校

○ 商船高専生のための仕事研究セミナー

令和5年5月27日(土)、本校第一体育館において商船高専生のための仕事研究セミナーを開催しました。

本校商船学科の1~5年生、広島商船及び大島商船の商船学科4・5年生が参加し、86社の企業から説明を受けました。

このセミナーは、学生の進路決定に必要な様々な情報と多様化する仕事に対して的確な選択ができる素地を育む機会を提供することを目的としています。

学生たちは、積極的に質問をしたりメモを取ったりして、説明に熱心に耳を傾けていました。



事態において取るべき行動を学びました。



○ 商船学科救命講習

令和5年7月19日(水)、商船学科1年生42名が参加し、救命講習を実施しました。

この講習はSTCW条約の批准に伴う船舶職員法に基づく講習で、海技免許取得のために必要な必ず受講しなければならないものとなっています。講習の中で、学生は膨張式救命筏の使用方法や、救命胴衣の着用方法、そして弓削丸からの飛び込み実習等を実施しました。

「万が一の緊急事態に船からの飛び込みを経験していることが命を守ることにつながる」と教員から説明を受け、学生は真剣に実習に取り組みました。3mの高さから飛び込む際にはさすがに緊張した様子でしたが、緊急

○ 練習船「弓削丸」による体験航海「一日船長」

令和5年7月29日(土)~30日(日)、練習船「弓削丸」による体験航海「一日船長」を愛媛県松山市及び今治市で実施しました。

今年是一般の応募とは別に海洋少年団を加え、2日間で一般と海洋少年団の体験航海を2回ずつ、計4回実施しました。

参加者は、スタンプラリーを行いながら、ブリッジで舵を取って操船したり、デッキから望遠鏡で遠くの島や船を眺めたり、制服を着て記念撮影をするなど、それぞれ思い思いに約1時間の航海を楽しみました。

最後に港から離れる際、海洋少年団から「ありがとう」と手旗信号の合図を受け、本校の学生からも「また来てね」と手旗信号で

合図を返し、姿が見えなくなるまで見送りました。

参加者からは「船を運転できてとても楽しかった!」、「本当におもしろくて、楽しくて冒険のようでよかった!」、「初めての経験を親子で勉強できて楽しかったです。学生さんの頑張りも良かったです!!」等の感想が寄せられ、高い評価を得ることができました。

また、本校練習船「弓削丸」による体験航海を通じて海事思想の普及を図ることで地域に対しても大いに貢献できました。



○ チャレンジキャンパス2023

令和5年8月5日(土)、「チャレンジキャ

ンパス2023」を開催しました。

本イベントは、子どもたちに楽しい体験を通じて科学技術の素晴らしさ・楽しさ・夢を伝え、科学に対する興味や関心を持ってもらおうと実施したもので、当日は約100名の方が来場しました。

イベントは、「航海術を学んでお宝をさがそう!」、「プログラミングでお絵かき」、「機械に欠かせない歯車をつくって学ぼう!」など、趣向を凝らした13の講座に、好奇心いっぱいの子どもたちが初めての体験に目を輝かせながら、「弓削商船かがくはかせ号」の取得を目指して真剣に取り組んでいました。

来場者からは、「どれも面白く楽しく、夢になれるものばかりでした」、「先生方やスタッフの学生さんたちが大変丁寧に接してください、とても満足していた様です。来年も是非参加したいと思います」といった感想が寄せられました。



○ 尾道市内の小学生を対象とした「海事教室」

令和5年9月13日(水)~14日(木)、尾道市役所において「海事教室」を実施しました。これは尾道市が推進している「尾道

「COOL CHOICE プロジェクト」推進事業の一環として、次世代を担う小学生に対して、海洋プラスチック汚染問題等の環境課題や、私たちの豊かな生活を支える海運について学び、海と船への関心と理解を深めることを目的として開催しました。

本イベントでは、本校の商船学科及び電子機械工学科の教職員等を講師として、尾道市内の小学校計3校、約80名の児童に対して、環境学習、ものづくり体験及び弓削丸体験航海を実施しました。

環境学習では、マイクロプラスチックによる環境問題やブルーカーボンについて取り上げ、海洋環境を守る大切さなどを学びました。また、マイクロプラスチックを使った万華鏡作りを行い、海洋環境について身近に考えてもらう機会となりました。

ものづくり体験では、児童が製品の元になるボルトやナット、歯車の仕組みなど実際の部品に触れながら学習しました。日本のものづくりを支える技術者について理解を深め、本校で作成したロボットの実演では児童たちは興味津々の様子でした。

弓削丸体験航海では、児童たちは船内を自由に散策し、船橋では操舵体験を行いました。また、機関制御室ではプロペラの回る向きや速さの説明があり、「プロペラは後ろから見て左に回っていることが分かった。普段知ることができないことを学んだ」と喜んでいました。



○ 令和5年度商船学科卒業式・専攻科(海上輸送システム工学専攻)修了式

令和5年9月23日(土)、令和5年度商船学科卒業式・専攻科(海上輸送システム工学専攻)修了式を挙行之、卒業生31名及び修了生2名に卒業証書・修了証書が授与されました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行を受け、4年ぶりに多数の来賓の方をお招きして式典を挙行することができました。

石田校長から、「これからの人生において、楽しいこと、苦しいこと、そして挫折も味わうことでしょうか。どうか、下を向くことなく胸を張り、常に未来を見据え、自分の進むべき道を見失うことなく、今を大切に生きてください」と式辞が述べられました。

また、来賓の井原巧衆議院議員、上村俊之上島町長、谷口功高専機構理事長、広重康成全日本船舶職員協会会長から祝辞をいただき、卒業生・修了生は引き締まった表情で聞き入っていました。

続いて、在校生総代の商船学科3年・岡田楓斗さんが送辞を述べた後、卒業生総代の永井達也さんによる答辞が行われました。

最後に、卒業生一同が登壇礼(とうしょうれい)を実施し、「ごきげんようー!」の掛け声とともに、全員の制帽が美しく宙を舞いました。

卒業生・修了生たちは穏やかな弓削の海に見守られながら、新しい人生航路へと出航しました。



○ 全国高専ロボコン2023四国地区大会 B チーム「デザイン賞」と「特別賞」受賞

令和5年10月22日（日）、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2023 四国地区大会」が高知工業高等専門学校第二体育館にて開催されました。

今年度の競技課題は、「もぎもぎ！フルーツGO ラウンド」で、フルーツに見立てたボールを収穫することと、収穫したフルーツを2つの障害物を攻略し、スタート地点へ運ぶことでした。

本校からは、A チーム（ロボット研究部）及びB チーム（電子機械工学科5年生）の2チームが参加しました。両チームとも予選リーグ敗退でしたが、共に1勝を挙げる事ができました。負けた試合も接戦で、会場を大いに沸かせました。

表彰式では、B チームが「独創的な発想から生まれた機構、かわいい表情のロボット、安定したハンド」を評価され、デザイン賞と特別賞（マブチモーター株式会社賞）を受賞しました。

【 練習船弓削丸 森瑛太郎 記 】

弓削商船高専同窓会

■第44回京浜地区しらすな会ゴルフコンペ

10月を迎えてようやく秋の兆しが見え始め、酷暑に見舞われた夏の気候は終わりを告げつつあります。皆さまはお変わりなく元気にお暮りでしょうか。

9月23日（土）成田東カントリークラブに同窓の2名が当会コンペに新たに加わり、年代は幅広く上は79歳から若さ溢れる25歳まで総勢23名が集い、第44回しらすな会ゴルフコンペを開催することができました。池や谷越えまた雨でぬかるみ多いコースに、全18ホールを悪戦苦闘しながらも落伍する者はなく、廻り切れたことはこの上ない喜びになりました。

コンペはペリア方式にてHANDY上限なしの形式で行い、映えある成績優秀者は下記の方

に決まりました。

	氏名	ネット
優勝	甲田 博義 (N82)	73.2
準優勝	藤田 和史 (N70)	74.0



第 44 回京浜地区しらすな会ゴルフコンペ集合写真

■令和5年度商船学科卒業式・専攻科(海上輸送システム工学専攻)修了式

9月23日(土)、令和5年度商船学科卒業式・専攻科(海上輸送システム工学専攻)修了式が挙行されました。今年度は感染対策を緩和し、16名の来賓をお招きして、校長、井原衆議院議員、上島町長、高専機構理事長、全日本船舶職員協会会長(柏木同窓会長代読)から祝辞をいただきました。卒業生は、商船学科航海コース17名、機関コース14名、計31名、専攻科(海上輸送システム工学専攻)2名で、進学も含めて新たな進路へ進みます。

賞状授与では、同窓会長賞を航海コースから中井冨風君、機関コースから岩部悠紀君が受賞(写真参照)し、賞状と記念品を授与しました。



同窓会長賞受賞の岩部学生(左)と中井学生(右)

■高専制度創設60周年記念植樹式等と功労者への感謝状贈呈式

9月23日(土)、高専制度創設60周年記念事業「高専の森」植樹式を本校野球場横で開催しました。

植樹式には、柏木同窓会長が招待され、石田校長による挨拶後、井原衆議院議員及び上村上島町長から祝辞をいただきました。続いて、参列者による「アオダモ」の植樹が行われ、最後に谷口理事長が謝辞を述べました。

「アオダモ」の花言葉は、「幸福な日々」「未来への憧れ」で、弓削商船高等専門学校に入学した学生が、幸福な学校生活を過ごし、また、希望にあふれる未来を思い描くことができるようにとの想いを込めて選定されました。

植樹式後には高専60周年の教育研究に対して深い理解を示され、多大な努力をいただいた功労者として、柏木同窓会長と上島町への感謝状贈呈を行いました。



記念植樹を行う柏木同窓会長と徳岡後援会長



感謝状を受け取る柏木同窓会長



鏡開き終了後、乾杯の挨拶をする柏木会長

■弓削丸進水式・祝賀会

10月6日(金)練習船として4代目となる「弓削丸」の進水式が、岡山県玉野市の造船所(三菱重工マリタイムシステムズ株式会社)であり、学生や関係者約110人が参加し、商船学科5年女子学生2名が船をつないでいたロープを切って、進水を祝いました。

進水式・祝賀会には、国立高専機構谷口理事長、柏木同窓会長をはじめ、5商船の練習船建造にご尽力いただいた山本順三衆議院議員、赤池誠章衆議院議員、井原巧衆議院議員も参列し祝辞を述べられました。

弓削丸は、適性を追求した女子学生専用エリアの他、誰もがスムーズに乗船できる通行設備を備えています。また、災害時における船外給水、給電、支援物資輸送、十分な衛生設備を含む居住設備提供および船舶型携帯電話基地局といった災害支援船としての機能も有しています。

さらに、船舶と学校を結ぶ船陸間通信装置を搭載したことで、船上での操船実習や機器操縦実習を陸上の学校施設側で同時受講することも可能となり、現代に即した優秀な海技士を養成するための最新鋭の教育環境を提供が可能となりました。

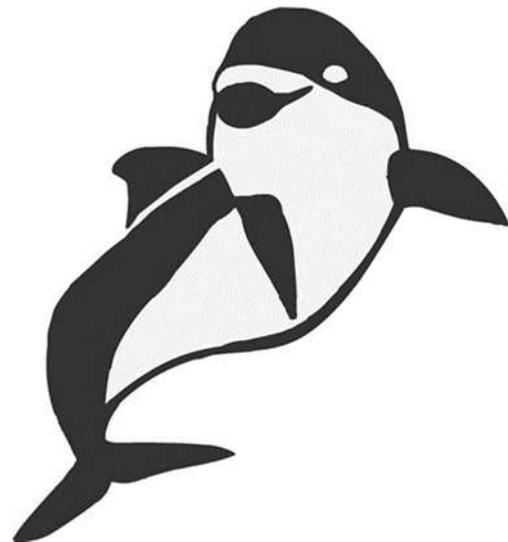
■同窓会事務局

電話(学校代表) 0897-77-4606

FAX 0897-77-4692

メール info@yuge-kosen.com

同窓会事務担当 田房 友典(I-2期)



海技教育機構

○ 乗船実習

高等専門学校 6 年生（第 52 期生）は、令和 5 年 7 月 1 日から最終船として「銀河丸」に乗船し、シンガポールへの遠洋航海を含む実習訓練を行い、9 月 10 日に修了下船しました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で 4 年ぶりとなる外地への遠洋航海となりましたが、寄港したシンガポールでは Port Operations Control Centre (POCC シンガポール港湾運用管理センター) を見学し、船舶の管制システムについての知見を得ることもできました。



(銀河丸)POCC 見学

今後は、進学や就職など、それぞれの道へ進みますが、これまでの実習で培った技能、課題へ取り組む姿勢、これまで頑張ってきた自分を信じて、これから先の歩みを進めてください。

そして仲間との絆は、きっと皆さんの「宝物」となっているはずです。宝物を末永く、大切にしてください。またいつか、どこかの海上で再会できる日を楽しみにしています。



(日本丸)総員退船部署操練の様子

10 月 1 日 高等専門学校 4 年生（第 54 期生）は、「日本丸」（航海科 98 名）及び「銀河丸」（機関科 81 名）に分乗し、5 ヶ月間の長期にわたる実習を行っております。

○ 令和 6 年 1 月から 3 月までの乗船実習の予定は次のとおりです。

(天候等の都合により変更する場合があります)

<日本丸>

- ・高等専門学校（航海科）4 年生
12/11~1/6 神戸（遠洋航海）、1/18~1/24 シンガポール、2/8 東京入港、2/10 下船
- ・高等専門学校（航海科・機関科）3 年生
3/1 乗船、3/4 東京発、3/9~3/13 横浜、3/20~3/23 大阪、3/29 神戸着、3/31 下船

<銀河丸>

- ・高等専門学校（機関科）4 年
12/9~1/10 東京、1/17~1/22 神戸、1/31~1/5 大阪、2/9 神戸、2/10 下船
- ・高等専門学校（航海科・機関科）3 年生
3/1 乗船、3/2 神戸発、3/8~3/13 大阪、3/20~3/23 横浜、3/28 東京着、3/31 下船

○ 海事広報活動 ～ 3年ぶりとなる練習船一般公開 ～

1. 「日本丸」が 10 年ぶりに姫川港入港、3 年ぶりとなる一般公開（8 月 4 日～9 日）

姫川港開港 50 周年を記念した行事に参加し、8 月 5 日（土）、6 日（日）には船内一般公開を行いました。

3 年ぶりの実施となった船内一般公開では県内外より約 3,500 名の方々が乗船され、船上では実習生が船体設備の解説やロープワーク教室を行い、多くの市民の方と交流をしました。

2. 「日本丸」が敦賀港にて一般公開（8月17日～20日）

日本丸は福井県敦賀市からの招待を受け、8月17日から20日の間、敦賀港に寄港しました。入港中は様々な交流行事が行われ、18日には敦賀海洋少年団の体験乗船会、19日（土）20日（日）には船内一般公開を行い、約3,900名の方々が乗船されました。



【一般公開】練習船教育支援募金

3. 「海王丸」が「長崎帆船まつり」に参加しました（11月2日～7日）

練習船「海王丸」は長崎帆船まつり実行委員会からの招待を受け、11月2日（木）から11月7日（火）の間、長崎港に寄港し「2023長崎帆船まつり」に参加しました。

「2023長崎帆船まつり」には「コリアナ」（韓国）、「観光丸」（長崎市）が参加しました。海王丸は11月4日（土）から5日（日）に一般公開を行い、3,372名の方々が乗船されました。

長崎港での一般公開の際、練習船教育の充実を目的とした「練習船教育支援募金」を実施いたしました。お預かりした募金につきましては、募金計画に基づき、セイルの購入費用に充てる計画としております。

募金計画：<https://www.jmets.ac.jp/news/n-2023110201.html>

厳しい財政状況の中で、船員教育機関としてより社会に貢献するために、また優秀な船員を引き続き養成していくために「練習船教育支援募金」を行っております。



【長崎港】イルミネーションと花火

○ 練習船「海王丸」神戸寄港 100 回目を迎えました

練習船「海王丸」は、8月19日（土）に神戸港高浜岸壁に入港しました。平成元年（1989年）12月9日の神戸初入港から34年を経て、通算100回目の神戸寄港となりました。

入港時には「bohbohKOBE」によるお出迎えクルーズが行われたほか、神戸市・神戸観光局主催の記念セレモニーを開催いただきました。また、神戸市在住の小中学生を対象とした親子向け船内見学会「神戸港バックヤードツアー」を行い、海王丸と神戸市との交流を深める機会となりました。

○ 海技教育機構オリジナルカレンダー2024販売

JMETSでは2018年から、練習船や各学校の写真を使ったオリジナルカレンダーを監修しています。今年のカレンダーに掲載される写真は、これまでの現役職員や実習生、学生・生徒に加え、今回は初めて職員OB・OGや元実習生、卒業生からも募集し、応募数は倍増しました。カレンダーは、そんな多数の応募の中から理事長等による写真コンペを経て選ばれた写真で構成されたものになっています。

練習船はもちろんのこと、各地の豊かな風景も楽しめる見どころ満載です。さらにカレンダーの各月には、練習船と各校の月間行事予定が掲載されたWebページにアクセスできるQRコードを配置、最後のページには全校の年間行事予定も掲載しております。

また、この売上げの一部は監修料としてJMETSに還元され、船員教育訓練の充実に充てられます。

JMETS: ホームページ :

<https://www.jmets.ac.jp/news/n-2023102001.html>

発注先 : 株式会社 交文社

<https://www.kobunsha-print.com/news/530>

TEL: 03-3267-1225 FAX: 03-3267-3120

値段 : 800 円 (税込)、送料別

サイズ : [カラーB4 (見開き B3) 版] 中綴じタイプ



○ 賛助会員制度のご案内

持続的なご支援を賜るために賛助会員制度を運用しております。

個人賛助会員 1 口 5 千円

団体賛助会員 1 口 5 万円

※ 海技教育機構賛助会費は、一般寄附金として特定公益増進法人への寄附にあたり、所得税・法人税の優遇措置の対象となります。

賛助会員様には JMETS が実施する行事の情報提供や、JMETS オリジナルグッズ送付などの特典をご用意しております。

画像は新規ご入会の会員様へのプレゼントセットです。(トートバッグは4種類の中からお選びいただけます。) ご継続いただく会員様へは毎年新たなプレゼントグッズをご用意しております。

WEB 上のお申込みフォームから、直接お申込みいただくことができます。

JMETS の活動内容にご賛同いただき、賛助会員にご入会くださいますようお願い申し上げます。賛助会員制度のご案内

<https://www.jmets.ac.jp/donation/o4qt2d00000002ey.html>



賛助会員 WEB お申込みフォーム



賛助会員制度のご案内

【 企画調整部企画課 間島 良博 】

「弓削丸命名・進水式」

弓削商船同窓会 会長 柏木 実

2023年10月6日、秋晴れの素晴らしい好天の下、三菱重工マリタイムシステムズ株式会社に於いて、弓削商船高等専門学校（以下、弓削高専）の4代目練習船弓削丸が沢山の関係の方々が見守る中、国立高等専門学校機構理事長 谷口功様の命名に続き、商船学科5年生田頭佳乃さん、中神なつみさん両名の支綱切断により見事くす玉が割れ、大きな歓声、拍手と共に播磨灘にその雄姿を浮かべました。

本船は、1994年3月に当造船所で竣工した3代目弓削丸よりも一回り大きく、威風堂々とした姿に感激し、今日に至るまでの長い道のりを思うと目頭が熱くなるのを覚えました。

当初は国家財政が厳しい中、校内練習船は、5校一隻でお願いをしないと通らないとの意見が持ち上がっており、大変憂慮しておりました。中学校を卒業したばかりの純真無垢な若者を5年半に亘り教育し、7つの海を駆け巡る遠洋船の船長、機関長に育成するためには、各校一隻の練習船は最も重要で必要不可欠な設備であるとともに、商船学校のシンボルタワーとしてなくてはならない存在であり、是が非でも各校一隻でお願いしなければならぬと考えておりましたところ、5校の校長先生からもご賛同を頂き大変心強く思っておりました。

2019年11月6日、各校代表者等と期成会を結成、自民党本部にて決起集会を



開催し、衆議院議員村上誠一郎様、参議院議員赤池誠章様、同山本順三様、同中西祐介様、全日本船舶職員協会前会長酒迎和成様、並びに多数の皆様方の多大なるご尽力により予算が確定し、目出度く弓削丸進水の栄誉を迎えることができました。この場をお借りし、改めまして心より厚

くお礼を申し上げます。また、本船の建造にご尽力を頂いております三菱重工マリンシステムズ株式会社代表取締役社長調枝和則様はじめ社員の皆様方に対しましても重々お礼を申し上げます。

弓削丸の主要目： 全長：56.3m、

全幅：10.6m、喫水：3.4m、

総トン数：370トン、速力12.5ノット

本船の内部は、セキュリティーを考慮しつつ快適性を追求した女子学生専用エリアの他、本校が掲げるダイバーシティ尊重の理念に基づき、誰もがスムーズに乗船できる通行設備を備え、災害時における船外給水、給電、支援物資輸送、十分な衛生設備を含む居住設備提供および船舶型携帯電話基地局といった災害支援船としての機能も有しています。船舶と学校を結ぶ船陸間通信装置を搭載し、航海計器情報、カメラ画像情報、船内の各種運転状況を陸上へリアルタイムに配信でき、造水装置など一部の船内機器については陸上からの遠隔操作もでき、これらの画期的な機能により、船上での操船実習や機器操縦実習を陸上の学校施設側で同時受講することも可能となり、優秀な海技士を養成するための教育環境を整備しています。今後は、商船教育並びに、災害救助船として大いに活躍が期待される最新鋭の設備を備えた弓削丸が進水の運びとなり、大変喜ばしく誇らしく思っております。

報道によりますと、国は、陸上のトラックの運転士不足および排ガスの削減効果を鑑み、陸から海へのモーダルシフトを推進して行くとの方針が決定されたと伺

っております。また、昨今の国際情勢および急速に進む円安により、今後は、日本人海技士の需要が益々高まり、将来は未曾有の船員不足が予想されております。諸先輩の方々が大変ご苦勞され、120年に亘って培って来られた海運立国日本の素晴らしい船舶運航技術のノウハウを絶やすことなく継承し、次世代に引き継いで行くのが我々の責務であると考えております。そのためには、現行の商船高専の教育制度を維持継続することが最も重要であり、弓削商船高専は、世界で冠たる海事都市今治のクラスターの一員として海事産業に貢献し、共に発展して行かなければならない船員養成専門機関であると考えておりますので、今後ともご指導とご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。



「新弓削丸」建造の報告

弓削丸 船長 加藤 博・機関長 松永 直也

○ 係船機について

新弓削丸の仕様について弓削丸船長として本校着任（令和3年4月）以来、新造船ワーキンググループ内で幾度もコンサル会社を含め、新弓削丸の仕様について細かい点に至るまで話し合いを重ねてきました。建造造船所も三菱重工マリタイムシステムズ玉野工場に決定し造船所との打合せも回を重ねつつ昨年4月以降、本格的な建造が開始されました。

そのような流れの中で令和5年5月19日、今治市の大西にある係船機メーカーに係船機の陸上試運転に立合う機会がありましたのでその様子をお知らせいたします。



写真1 係船機

工場内に据置かれた係船機を見たときに、今までの係船機よりドラムが左右1つずつ増えているにもかかわらず、意外にコンパクトに感じたのが第一印象でした。

メーカー側より説明を受け、その後、無負荷状態から試運転を開始しましたが、異音発生・作動油漏れ等の顕著なトラブルもなく順調に試験は進んでいきました。

一通りの試験が終了した後、気づいた箇所

を幾つかメーカー側に伝え改善を申し入れました。大きなものとしては、①ハンドブレーキとドラムの接触部にグリスニップルがない箇所が数か所あったので、必要箇所にはグリスニップルを付けること。②ポンプとピストンの位置が係船機を使用する時に邪魔にならないか。の2点をこちらから指摘させていただきました。



写真2 係船機油圧部分

ドックで本船に搭載された状態を確認したところ、おおむね良好な状態で据え付けられていましたが、台に乗った状態だと高さがでて、使用しづらいのではないかと懸念も出てきたため、随時造船所側とやり取りを行いながらベストの状態にもっていきたいと考えております。

10月6日の進水式以降、艤装も本格化しています。学生が使いやすい船を第一として引渡しまでしっかりとみていきたいと考えています。

○ 推進プロペラについて

新「弓削丸」搭載予定の可変ピッチプロペラ（CPP）の工場検査立会の報告をさせていただきます。ナカシマプロペラ株式会社（岡山県岡山市）にて CPP の工場検査が実施されました。直径 2,600mm の CPP が搭載されるということで、現在の弓削丸（2,100mm）より 500mm大きくなります。



写真3 静的釣合検査の様子



写真4 CPP 作動試験

静的釣合検査を実施してから半月程度経過後、CPP 作動検査がありました。

制御盤への電源投入から油圧ポンプ起動など、船内でのいつもの出航スタンバイと基本的操作は同じでも、工場内での作動確認はディーゼル発電機の運転音の無い少し異なる環境でした。推力ゼロの翼角から最大翼角までの所要経過時間の報告、作動油の最大油圧や油温の報告など計測担当者からの元気のよい声が工場内を響き渡る状況でした。

このようにして練習船に搭載される各種機器は工場内で製作・組立て、そして作動確認が実施されるという流れが非常によくわかり納得できる工場検査でした。



写真5 CPP 作動試験最大翼角

○ サイドスラスターについて

船首・船尾にスラスターが装備される予定で、ナカシマプロペラ株式会社にて各種試験が行われました。外観検査、回転試験、作動確認試験などが実施されましたが、スラスターが回転している様子を実際に見ることは初めての経験となりました。

回転試験では試験用電動機にてスラスターを空気中で2分間回転させ、各部の温度・シール部の漏れ、異音の有無等を確認しました。

翼角を中立から右推力、そして左推力へと作動状態の確認を行いました。翼角を大きくするに従いスラスターからは強風が吹き放たれました。このパワーで離岸・接岸を補助するということが実感できる作動試験でした。

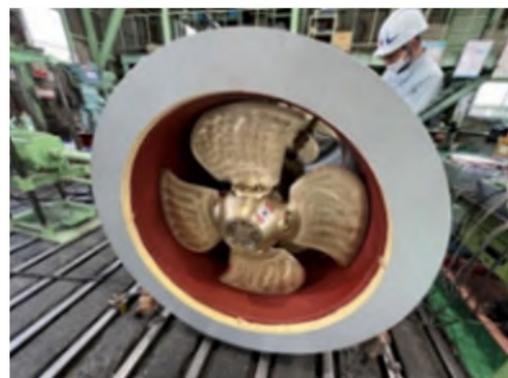


写真6 サイドスラスター作動試験

第4代「弓削丸」を利用した新たな練習船実習

弓削商船高等専門学校 商船学科長 二村 彰

ここでは、2023年10月6日に命名・進水式を迎えることができた第4代「弓削丸」を用いた今後の練習船実習について紹介させていただきます。



新弓削丸3Dグラフィック



進水式の様子

新しい船の大きさ及び設備拡充により、船橋や機関室などが広くなり、学生たちの実習環境が大幅に改善されました。これにより、これまでと比較してより多くの学生が「見て・触って・動かす」実践的な学びを享受できるようになり、理解度や学習意欲の向上が期待されます。

船橋では、以前は紙の海図を使用した実習が一般的でしたが、新たに大画面ディスプレイに表示される電子海図が船橋内に設置され、最新の船位や航海情報をもとに学生たちと共有できるようになります。また、新たに導入されるDPS（自動船位保持装置）を使用して特殊操船の実習を展開予定です。さらに、新しい船では、自動航行システムの初歩段階として、船と陸をリアルタイムに連結・融合した教育実習が可能

で、甲板部では、航海情報やリアルタイムな航海画像をもとに、実際の船とリンクした実習が陸上で行えます。機関部では、データロガーのミミック表示を陸上から確認し、陸上と船内でコミュニケーションをとりながら、造水装置の遠隔制御が可能となっています。今後の練習船実習にご期待ください。



岸壁係留中の弓削丸



ファンネルと校章



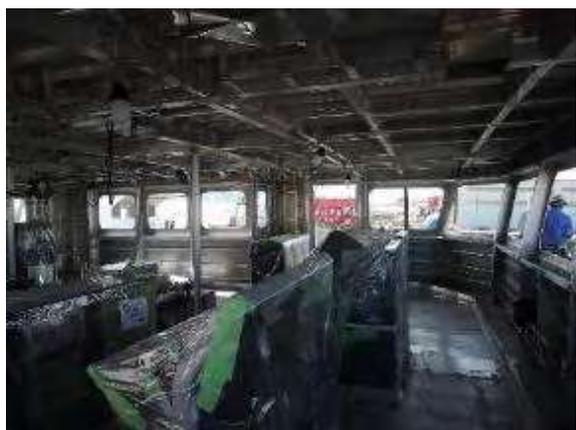
船名披露の様子



船橋(船尾側)



学生ホール



船橋(船首側)



訓練用制御盤



機関制御室(船首側)



機関室



機関制御室(船尾側)

第4代練習船「弓削丸」命名・進水式に参加して

弓削商船高等専門学校 商船学科5年 田頭 佳乃 中神 なつみ



進水式 支綱切断の様子

○ 商船学科5年 田頭 佳乃

進水式での支綱切断はとても感動的な瞬間でした。綱が外れ、「新弓削丸」が海へ進んでいく姿はまるで私たち商船学科の学生が卒業後、広大な海へ出発していくかのように感じ、一言では言い尽くせない感動がありました。

第3代弓削丸での実習は、弓削商船での学びそのものです。機器の名称何一つ分からないところから、自分たちで機関の発停ができるようになるまでと多くのことを学びました。

船内各所にある思い出が少し名残惜しいですが、きっとこれからは第4代弓削丸が後輩たちを導き、知識と自信を与えながら新たな航海へと旅立っていくでしょう。

弓削の海から、世界の海へ。そのような船員が弓削商船から旅立っていくことを願っています。そして私自身、第3代弓削丸で学んだことを胸に新たな航海に挑戦していきたいと思います。



進水式

○ 商船学科5年 中神 なつみ

初めての弓削丸実習では名称、配置、機器など何もわからず上手くやっていたのかという不安が強かったのを覚えています。5年生になり、今は機器類や出入港の流れ、船のことなど瞬時に答えられるようになり自信が持てるようになりました。

進水式で支綱切断を行った時、新弓削丸が完成して嬉しい気持ちと同時に5年間、同級生と実習した弓削丸が居なくなってしまう寂しさも感じました。新弓削丸は今よりさらに大きく、設備も良くなり、制御室から機関室が直接見えると聞きました。出入港時の流れがこれまでより分かりやすくなり、実習や復習もしやすくなると思います。また、イベントでの乗船体験など実習だけでなく多くの場面で活躍して欲しいと願っています。弓削丸実習では多くのことを体験し、たくさんの方のことを学ばせていただきました。これらを最大限に生かし、今後の船員生活に役立てていきたいです。



左:中神学生 右:田頭学生



銀の斧(支綱切断に使用したもの)

参議院議員(比例代表 全国区)

赤池まさあき

～国づくり、地域づくりは、人づくりから～



日々勉強!
結果に責任!

海事振興連盟 29項目を決議



年末に向けて、
「国づくり、地域づくりは、人づくりから」を信条に、そして「日々勉強!結果に責任!」をモットーとして、活動を展開している参議院議員(比例代表全国区)赤池まさあきです。
去る十一月十三日、海事振興連盟(衛藤征士郎会長)の総会が開催されました。
出席した海事諸団体からは、現状を踏まえた要望を頂きました。それを踏まえ、出席した国会議員が意見を述べ、その結果、以下二十九項目の決議を行いました。

税制改正と予算獲得を行い海事産業を振興へ!

- ◎総会での決議二十九
 - ① 国際船舶登録免許税と固定資産税の特例措置、軽油引取税の税制支援。
 - ② 倉庫用建物等の割増償却や固定資産税・都市計画税の特例。
 - ③ 船員の所得税減免等の導入。
 - ④ 港湾のデジタル化等の財政・税制支援。
 - ⑤ 海上の通信環境整備。
 - ⑥ 海事産業へのGX移行債の活用等。
 - ⑦ 気候変動対策としての二〇五〇年頃までに温室効果ガスGHG排出ゼロのルール化支援。
 - ⑧ 新燃料船や省エネ船の研究開発、拠点港の整備。
 - ⑨ 浮体式洋上風力発電への支援。
 - ⑩ 脱炭素化港CNPへの整備。
 - ⑪ 物流二〇二四年問題に対応すべくモーターシフトへの支援。陸海空の均衡した料金政策の確保。
 - ⑫ 艦艇・官公庁船の促進、防衛生産基盤強化法の適切な運用。
 - ⑬ 経済安保推進法に基づく支援強化。
 - ⑭ 内航船は自国船という
 - カポタージュ制度の堅持。
 - ⑮ 海事産業強化法に基づく支援、融資強化。
 - ⑯ 荷主等との取引等の環境整備。
 - ⑰ 燃料油支援の継続と地方からの支援強化。
 - ⑱ 感染症対策として、旅行需要喚起や船員の環境整備。
 - ⑲ 船員の確保・育成に向けて、海技学校の定員拡大や職場環境整備等。
 - ⑳ 海洋・造船教育の充実。
 - ㉑ 外国人材の受入整備。
 - ㉒ 海上輸送の安全確保。
 - ㉓ ジェットフォイル等の離島航路支援、特定有人国境離島法の支援充実。
 - ㉔ 旅客船安全対策推進。
 - ㉕ 中韓の造船業への公正な競争条件の確保。
 - ㉖ 内航船や旅客船の代替建造の促進。
 - ㉗ 祝日海の日を七月二十日に固定化。
 - ㉘ 学校の海洋教育充実。
 - ㉙ 海洋少年団の強化と広報の充実強化。
- 以上を踏まえ、年末の税制改正や予算確保に全力を尽くします。

【裏面に続く】

《国会事務所》
〒100-8962
東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館524号
TEL: 03-6550-0524
FAX: 03-6551-0524
HP: <https://www.akaike.com>

【自由民主党 党員募集】
自民党では党員を募集しています。詳細は事務所まで!

赤池誠章(あかいかげまさあき)
昭和三十六年山梨県生まれ。明治大学卒。松下政経塾出身。自動車整備士養成専門学校長を経て、衆議院議員に初当選。清和政策研究会に所属。平成二十五年の参院選比例代表(全国区)で国政復帰。国土交通委員、文部科学大臣政務官、文部科学部会長(三期)、内閣府副大臣を務め、現在、党政務調査会副会長、海事振興連盟常任幹事、海洋教育推進PT座長、参議院議員二期目。





日々勉強！
結果に責任！

参議院議員(比例代表 全国区)

赤池まさあき

～国づくり、地域づくりは、人づくりから～

令和5年(2023年)11月24日(金曜日)

自民党 Lib Dems
Liberal Democratic Party of JAPAN

国政ニュース

海事関係会合連続開催／鳥羽商船高専視察

◎海事共創首長の会

そして、十一月十五日(水)には、参議院議員会館において、全国四十四市町で構成される「海事産業の未来を共創する全国市区町村長の会」が開催されました。首長からの要望を踏まえ、意見交換しました。子供や若者が海事産業に夢を持てるような取組みをしてほしいとの強い意見を頂きました。

◎海運・造船対策特別委

さらに、十一月十六日(木)には、自民党本部において、海運・造船対策特別委員会が開催されました。海事団体から要望を聞き、国交省の取組みを聴取し、出席議員と意見交換しました。



代表して折原呉市長から要望を聞く

翌週の十一月二十二日(水)にも、自民党本部で海事立国推進議員連盟が開催されました。

両会議においても、決議を行い、要望の実現に向けて、全力を尽くしています。

◎鳥羽商船高専を視察

それらに先立って、十一月五日(日)は、三重県鳥羽市にある国立鳥羽商船高等専門学校を視察し、高専制度六十周年記念植樹式に出席しました。

鳥羽商船高専は、全国五つある商船高専の一つで、唯一太平洋に面し、二年後に



自民党海運・造船対策特別委員会の様子



創立百五十年を迎える最も歴史ある高専です。高専制度は、中卒五年制という我が国が世界に誇る技術者養成制度です。

商船高専の学生と懇談しましたが、志を持った多くの仲間とほぼ全寮制で学ぶことで、楽しく、そして、知識技能が身につくと満足感を語っていました。

鳥羽商船高専は、就職先の民間企業の方々と連携協力会を組織しており、その方々とも懇談しましたが、知識や技能はもちろんですが、挨拶やコミュニケーション力等、卒業生の評価は高いものがありました。商船高専は、海洋国家である我が国を担う海洋人材を

輩出しています。現在、練習船を老齢船順に更新することを支援しています。今年三月の大島商船高専の大島丸が引き渡しとなり、十月には弓削商船高専の弓削丸の進水式に立ち寄り、現在鳥羽商船高専の練習船の調整が行われています。今後も、富山高専、そして、広島商船高専の順に更新されます。引き続き、海洋教育の推進をより一層支援していきたいと思っております。(赤池まさあき)

その他、国政報告はこちらをご覧ください。



本部・支部だより

- 2023/08/03 赤池誠章参議院議員 訪問面談
(広重・飯島)
- 2023/08/03 文部科学省 高等教育局 専門教育課課長 塩田剛志氏・課長補佐 前田隆司氏 訪問ご挨拶
(広重・加藤・飯島)
- 2023/08/10 海技教育機構 練習船「銀河丸」遠洋航海出航式が東京港・晴海埠頭にて実施され、商船高専生航海 76 名、機関 83 名、海大 14 名の実習生がシンガポール向け航海訓練に出港
(中山隆志・飯島)
- 2023/08/25 衛藤征士郎衆議院議員 Early Bird Seminar (広重)
- 2023/09/14 赤池誠章参議院議員 訪問面談
(広重)
- 2023/10/06 弓削丸 命名・進水式・祝賀会
(広重)
- 2023/10/06 写真展「波濤を越えて」オープニングセレモニー(日本丸メモリアルパーク特設会場) (飯島)
- 2023/10/09 帆船日本丸総帆展帆 400 回記念セレモニー出席 (広重・加藤)
- 2023/10/11 衆議院議員 塩谷立君を激励する会 (キャピトルホテル東急)
(飯島)
- 2023/10/12 海技教育財団「奨学生選考委員会」
(海運クラブ) (飯島)
- 2023/10/21 2023 年度第 2 回通常理事会 (千代田区神保町区民館) (ひまわり館) 広重康成会長をはじめ出席理事 11 名、出席監事 2 名にて開催 上半期事業報告や上半期決算案、来年度の役員選挙に関する件などが審議され承認された。
- 2023/11/01 5 校商船学科長懇談会 (千代田区神保町区民館)
(広重・加藤・徳嶋・飯島)
- 2023/11/05 鳥羽商船高等専門学校での高専制度創設 60 周年記念事業「高専の森」植樹式出席
(広重・酒迎)
- 2023/11/13 海事振興連盟 令和 5 年度通常総会 (海運クラブ 2 階大ホール) 開催 (飯島)
- 2023/11/17 参議院議員 中西祐介君を励ます集い 2023 (ホテルルポール麹町「ロイヤルクリスタル」)
(飯島)
- 2023/11/20 第 1 回役員候補者選考委員会が開催され、委員長に矢野芳秀氏を選出、役員選挙の今後の日程が承認された (千代田区万世橋区民館 8 階にて 委員 8 名出席・事務局)
*2023 年 12 月 11 日 (月) 役員選挙の告示、役員候補者募集開始
*2024 年 1 月 22 日 (月) 役員候補者応募締め切り
*2024 年 1 月 26 日 (金) 第 2 回役員候補者選考委員会 (必要に応じて)

2023年12月11日

役員立候補者募集告示

一般社団法人全日本船舶職員協会
役員候補者選考委員会委員長

一般社団法人全日本船舶職員協会は、役員（理事・監事）の任期が2年となっており、現役員の任期は2024年度通常総会をもって終了いたします。

そのため、以下の要領で候補者を公募して2024年6月に予定される通常総会において新役員を選任することを下記の通り告示いたします。

記

募集要項

1. 立候補資格（役員候補者選考規則、第8条）

正会員で、会費を3年以上未納となっていないこと。

2. 募集する役員の種類（定款、第24条、役員候補者選考規則第4条、第5条）

理事10名以上15名以内（役員候補者選考規則第8条2項の3名を含む）。

監事2名。

役員候補者選考規則第4条により、次の立候補区分から理事及び監事の立候補者を募ります。

- (1) 富山高等専門学校商船学科卒業者
- (2) 鳥羽商船高等専門学校商船学科卒業者
- (3) 弓削商船高等専門学校商船学科卒業者
- (4) 広島商船高等専門学校商船学科卒業者
- (5) 大島商船高等専門学校商船学科卒業者
- (6) 上記を除く本協会の正会員

区分毎の立候補定員に満たない時、または超過した場合は役員候補者選考委員会が理事会で決めた各推薦数（理事2名、監事は輪番制）を基に調整させていただきます。

3. 募集期間

募集開始 2023年12月11日（月）

募集締め切り 2024年1月22日（月）

（立候補届は締切日までに全船協本部に必着のこと。）

なお、詳細については全船協ホームページを参照ください。

賛助会員名簿

2023年11月現在

賛助会員の方々にご支援とご協力をいただいております。(一社)全日本船舶職員協会

広島商船校友会	有限会社システムエンジニアリング
弓削商船高専同窓会	日本ガスライン株式会社
北斗会事務局	名阪船舶株式会社
大島商船高専同窓会	戸田汽船株式会社
鳥羽商船同窓会	株式会社商船三井内航
株式会社コトシステム	菅原汽船株式会社
北星海運株式会社	神戸マリーン工業株式会社
山友汽船株式会社	株式会社マリントランスシステム
株式会社B&Sエンタープライズ	正栄汽船株式会社
栗林商船株式会社	かもめプロペラ株式会社
名古屋メッキ工業株式会社	東興海運株式会社
八馬汽船株式会社	鹿児島船舶株式会社
大四マリン株式会社	摂子汽船株式会社
NSユナイテッド内航海運株式会社	株式会社NMDグループ
太洋産業貿易株式会社	ダイハツディーゼル株式会社
旭運輸株式会社	三陸運輸株式会社
上野トランステック株式会社	兵機海運株式会社
株式会社 ウシオ	協同商船株式会社
日本栄船株式会社	日本油化工業株式会社
宮城マリンサービス株式会社	株式会社アイエスシー
株式会社ハマテクノサービス	

2023 年度会費納入者芳名帳

2023 年 12 月 12 日現在

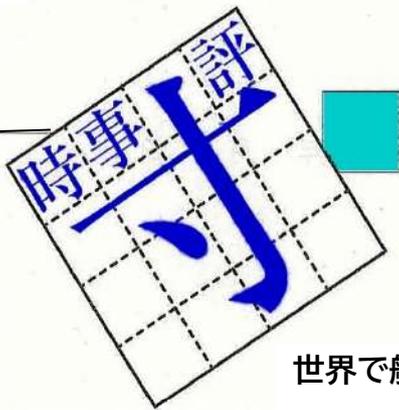
9 月	吉村 重登	吉本 茂正	小池 信雄	下野 紘史
個人入金	渡辺 隆彦	西谷 直記	柴田 周平	桑田 大輝
種谷 收	松見 準	西谷 勇二	井上 健二	野崎 正則
西宮 昭二	吉澤 勇	澤田 敬生	岩田 來夏	沖本 和也
田島 孝一	谷口 誠	門脇 元	直原 正汰	秋元 光博
小田部 誠一	西村 臣正	亀井 謙多	村田 一明	内藤 真世
杉本 真吾	高垣 毅	濱本 奈	荒木 新一	宇高 保
鬼木 海	岩本 竜輔	浅沼 裕	秦 眞三	島本 順
菅沼 延之	栗阪 肇	澤井 建毅	中川 佳彦	山中 亨子
吉原 蒼一郎	中山 隆志	牧野 綜太	大原 智喜	小谷 卓哉
寒河江 芳美	西山 豊久	松岡 理人	吉村 蔣造	二ツ石 聖示
武田 雄三	文谷 嘉宏	萬里小路 弘伸	古川 洋	新田 浩貴
西本 雅之	和田 一輝	石井 照大	西山 英二	須佐美 智嗣
栄 雄生	丸山 大輔	中山 祥吾	角谷 綾真	竹内 航平
藤井 一洋	中川 敏昭	田中 新人	川下 尚剛	菅原 央貴
武村 泰宏	橋本 禎成	芹田 眞光	玉川 宏	桑田 禎之介
渡部 英利	10 月	岩城 賢太	藤井 飛雄馬	山田 青五
小島 健次郎	個人入金	末岡 民行	花澤 利男	小林 大
谷中 和泉	森 健介	佐尾 治作	松田 孝	師富 潤
大木 一也	木場 恭平	眞鍋 治	須田 浩明	高橋 美和
安藤 来夢	中島 敏行	竹田 英樹	松榮 正允	太田 知孝
鳥居 幹也	安部 眞一	近藤 武	小林 司	内中 豊
森田 任紀	岩本 利雄	小林 悠	野村 浩久	三好 閱昌
福田 祥司	中居 豊平	畑内 康孝	中森 晴雄	大下 博弥
山田 昌利	伊庭野 紀弘	松本 弘明	江種 大宗	桂 幹治
鈴木 晴敏	黒木 修	木下 博	岡田 卓三	有本 香織
加藤 正	橋之口 勉	森下 昂	小山 靖	木元 孝憲
舘 満治	國武 千歳	上村 尚希	伴 良造	阿久根 浩人
齋藤 彰	木下 健	西村 誠	峯 浩	高野 清文
中瀬 和典	井波 稔	堀田 規安	勝木 輝明	丁田 慎一郎

原田 圭司	杉山 博	外谷 正彦	堀江 貴義	内山 拓哉
横山 良一	梶原 仁	石田健一郎	岡本 二郎	木村 祐太郎
1 1 月	佐藤 信義	浦田 建	大下 尚	竹俣 多聞
個人入金	嵐 公司	中野 寛士	佐藤 祥二	繁岡 潤人
西 泰浩	山友汽船(株)	岩城 音芽	中西 智章	佐藤 陽登
足立 雅俊	望月 正信	日本郵船(株)	森 団平	溝口 雄基
武田 康裕	松林 祐馬	藤田 繁	岩本 真一	村上 凜汰朗
石堂 雅貴	北島 章市	泉 良充	富田 佳彦	原田 亮太郎
鍋島 誠	川淵 仁	森川 勉	川上 哲治	橋本 康平
田中 英治	大坪 鴻介	大木 昭和	蔵田 恒志郎	濱田 彪我
川島 弘行	仁井岡友康	長井 一剛	小西 智子	三輪 恭也
亀山 真吾	逢坂 武	安井 修三	富士 竜太	
千道 英雄	永井 達朗	相原 隆志	高橋 英次	終身会員
江川 裕之	梶原 拓海	一原 勝彦	菅 篤志	本望 隆司
大木 未来	近藤 拓斗	芥川 俊久	應治 俊幸	佐々木重幸
浜田 幸佑	今城 冬哉	萩原 智昭	須磨 秀文	濱中 健吾
松井 拓海	磯野 達也	藤野 晴久	石井 秀典	新家谷 聰
三浦 大路	工藤 善己	杉山 栄作	笠松 法昭	堀本 俊幸
谷本 優太	光田 公德	池田 和人	古川 大樹	
野田 良太郎	吉村 耀	麻生 恵毅	成田龍之介	
竹本 了介	竹嶋 琳香	徳田 健二	久保 潤一	
町 裕次	田中 咲楽	鳴海 弘晃	岡田 悠紀	
高田 忍	平野 有輝	杉山 治	神田 和也	
吉川 温己	進藤 弘和	中原 雅光	川西 雄太	
村上 航	1 2 月	半田 洋樹	鈴木 直	
土肥 一輝	個人入金	出口 孝治	森下 辰郎	
上野 勇介	神田 修二	森 光生	三宅 俊哉	
中里 隆太郎	早崎 弘泰	熊谷 英樹	小林 佳寛	
片山 隼作	共栄タンカー(株)	佐々木 努	下田 賢斗	
(株)ジェイマリン	佐藤 好司	梶山 勝徳	山森 大幹	

2023 年度新卒及び新入学入会者名簿

2023 年 8 月 1 日～2023 年 12 月 12 日

新卒入会者					新入学入会者
富山高専	芝 慶大	久家 迅人	高藤 丈太郎	松浦 光里	弓削商船高専
新宅 陽介	武智 佑真	藤本 実里	満井 青空	枝常 楽	前川 あずさ
池原 直也	田中 翔	藤原 侑大	村井 隼人	獅々戸 翔生	山本 イサベラ
飯村 拓里	西村 経悟	丸山 太洋	小林 勇海	室田 立樹	高原 千暖
新沼 剛	新田 暖仁	溝田 響	友澤 柊太	内田 楽	
鳥羽商船高専	藤高 勇希	安木 弘武	辻 昌秀	岡田 洋太郎	
南方 理玖	宮沢 友	原田 直幸	世木 颯生	拝郷 法華	
猪尾 武弘	安井 蓮	桑田 瑛士	宮川 壮太郎	永井 達也	
伊藤 誉人	吉田 陽翔	武田 漱真	田中 巖之助	中井 冴風	
勝見 景次	依田 陽杜	熊谷 倫太郎	堤 貫太	茂木 佑斗	
楠井 瞳也	米重 絢人	大島商船高専	加納 嵩也	松島 暖樹	
中川 蒼麻	渡辺 七海	柴田 華那	案浦 直哉	梅野 悠雅	
西山 竜輝	天羽 祐樹	大島 利宗	富永 龍輝	岡村 裕也	
秋元 圭	有賀 大吉	吉良 翔馬	宮田 知明	香川 凜太郎	
川上 僚介	井上 浩朗	園村 浩輔	船津 心佑	山本 悠陽	
坂本 拓真	岩野 成	吉川 京介	長谷川 拓海	仁井田 康一朗	
多部田 翔太	姥迫 竜ノ介	浅井 椋	山崎 剛志	山口 弘記	
中野 陽悠馬	大友 蓮	西本 勘太	小山 千景	杉山 楓学	
船井 大暉	川神 武久	世良 駿汰	南 洋光	木下 慎之助	
古城 怜士	小池 なずな	西村 駿佑	弓削商船高専	松浦 駿	
山本 大雅	小池 隆太	藤澤 弦	稲本 有我	阿部 航大	
吉村 明日香	小沢 尚平	梅本 涼矢	中村 啓人	東海大学	
広島商船高専	中野 颯太	佐伯 滉史	濱本 明登	進藤 弘和	
西宮 昭二	西浦 周	鹿嶋 統威	松川 怜王		
伊藤 碧	服部 息吹	伊東 武蔵	向殿 寛太		
斉藤 真子	半田 晴人	東明 暁	二宮 颯大		



世界で船員不足加速

国連貿易開発会議（UNCTAD）によると、21年時点で世界の船員は約189万人いる。船長や機関長、航海士、機関士、など資格を保有する「職員」が45%、「部員」が55%程度とされる。英調査会社ドゥルーリーは遠洋航海の商船に従事する職員を対象に06年から需給の調査をしている。23年1月1日時点では職員の需要70万5020人に対して供給は64万8190人と不足率が8.8%に上がり、22年の5.4%から急上昇した。部員は調査の対象外だが、同様に不足が懸念される。

コロナ禍をきっかけに不足率は上昇が続く。船員は通常、数ヶ月乗船して出発時とは異なる港で下船した後、飛行機などで帰国することが多い。UNCTADによるとコロナ関連の渡航制限で、ピーク時には最大約40万人の船員が当初の契約期間を超えて船に取り残され、帰国できなかったという。そこにロシアによるウクライナ侵攻が拍車をかけた。

UNCTADによると21年時点で、国際的な商船隊に乗船する189万人のうちロシア人は10.5%を占めフィリピンに続き2番目に多い。ウクライナ人も4%と6番目だ。「多くのベテラン船員が軍隊に入るため帰国し船員供給にさらなる困難が生じた」（ドゥルーリー）という。船員構成は3位インドネシア人7.6% 4位中国人7.1% 5位インド人6.0% その他51.5%

『2023年8月3日日本経済新聞より』

表紙写真「えくすくうる」山友汽船株式会社 提供

本船は、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が実施する「CCUS 研究開発・実証関連事業/苫小牧における CCUS 大規模実証試験/CO₂輸送に関する実証試験/CO₂船舶輸送に関する技術開発および実証試験」の実証試験船で、概要は、タンク容積：1,450 m³ 長さ：72.0m 幅：12.5m 喫水：4.55m

編集後記

近年、シルバー川柳やサラリーマン川柳のようなクスッと笑える面白い川柳が話題です。特に自ら抱える課題や不安を嘆くのではなく、敢えて「笑い」に転換する自虐ネタなどが人気です。人生100年時代はユーモアセンスを持ちもっと楽しい毎日に！ 老年学の専門家の中には「体の健康を追求するだけではもったいない」という人も。心の健康を保つスキル、すなわちユーモアのセンスやポジティブに考える心、知的好奇心を持ち、自分を幸せにすることも大切です。年を重ねると、思い通りにいかなることが多くなるのは当然のこと。それを悲観的に捉えるとそれ自体がストレスになり、状態を悪化させることも。反対に、喜劇やジョーク集などを読み、笑い、プラスの感情を高めることで病気を克服したという例もあります。笑いはストレス解消に、大笑いすると血行促進にもなります。リラックスすることで自律神経も整い、いいこと尽くし。免疫細胞が活性化するという実験結果もあります。筋肉同様、笑いのセンスも鍛えていきましょう！もちろん、脳トレにもなります。『万歩計 半分以上 探しもの』『恋かなと 思っていたら 不整脈』『テレワーク 上司と妻の ダブル指示』（飯島・記）

全船協 会報 154号 新春号

2024年1月発行

◇ 発行所：一般社団法人 全日本船舶職員協会 ◇ 編集兼発行人：加藤 信 一

本 部：〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町三丁目7番12号 清話会ビル2階B室

TEL 03-3230-2651 FAX 03-3230-2653

E-mail: honbu@zensenkyo.com URL: <https://www.zensenkyo.com>

神戸支部：〒650-0015 神戸市中央区多聞通二丁目1番1号 多聞プラムビル2階 山友汽船(株)内

TEL 078-958-6815 FAX 078-371-5520

E-mail: kobe@zensenkyo.com



Tokyo Bay Licensed Pilots' Association

東京湾水先区水先人会

会長 足立和也

〒231-0023 横浜市中区山下町1番2 パイロットビル
(代表・総務部) TEL(045) 650-3180 FAX (045) 663-4811
(オペレーション部) TEL(045) 681-4081 FAX (045) 681-4090
TEL(045) 681-4091
URL : <http://www.tokyobay-pilot.jp>

株式会社 コトラシステム

代表取締役 望月正信

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-12-13
日本橋劔佐ビル3階

電話 (03) 3245-6975
FAX (03) 3245-6980
E-mail: cotrasystem@nifty.com



内海水先区水先人会

Licensed Inlandsea Pilots' Association

会長 末岡民行

〒650-0034
神戸市中央区京町72番地 新クレセントビル3階
電話 (078) 332-7191 FAX (078) 391-7157
E-MAIL info@inlandsea-pilots.jp

関門水先区水先人会

会長 前原武人

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目2番13号
電話 (093) 332-2384(代)

船舶、船舶装備器具及び部品の販売、輸出。作業船の
貸賃船舶修理、検査工事の請負及びコンサルタント。

K2 シップマネジメント株式会社

〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-13-14
パークノヴァ横浜・芯番館306

電話 : 045-290-6082 FAX : 045-290-6916
E-mail : kani@ksh.biglobe.ne.jp



名阪船舶株式会社

代表取締役 高橋 宏之

〒552-0022 大阪市港区海岸通3丁目2番2号

TEL 06-6572-6221 FAX 06-6574-0635

<http://www.meihansenpaku.co.jp>

大阪湾水先区水先人会

会長 望月 誠

〒650-0042 神戸市中央区波止場町1-5
電話 (078) 321-7221
FAX (078) 321-5307



伊勢三河湾水先区水先人会

“安全と信頼を提供”

会長 高尾 幸徳

〒455-0032 名古屋市港区入船二丁目4番6号
名港ビルディング 17階

電話 : (052) 304-8311 FAX : (052) 304-8312



Marine Trans System Co., Ltd.

株式会社マリントランスシステム

代表取締役社長 小林 悠

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号
セントラルビル2階 (fabbit内)

電話 050-3187-3610(代) FAX 03-6629-6290

船長のための海洋関係法

海洋の自由と法秩序

商船の船長、航海士、それらを目指す学生が学んでおくべき国際法、海洋法、関連する国内法についての概説書。法理、法原則の説明には豊富な事例を加え、重要なトピックはコラムとして解説し、内容を充実させた。船長経験者として海技大学校での実務教育に従事した後、東京海洋大学で法律学の教鞭をとる著者集大成の一冊。

逸見真 著 A5判 400頁 定価 3,960円(税込)



船の基本

船のスペシャリストを目指す人のための入門書

船舶工学の第一人者である著者が送る<船の専門家を目指す人のための入門書>の決定版。第1章「船とは」から始め、船の分類、用途、材料、構造、設備、建造、メンテナンスと修繕、法規、速力など、全14章にて、わかりやすく解説。イラストや写真を豊富に掲載し、最新鋭の船舶技術も紹介する。

池田良穂 著 B5判 216頁 定価 3,520円(税込)

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4
TEL 03-3815-3291 FAX 03-3815-3953

海文堂出版

<http://www.kaibundo.jp/>
e-mail: hanbai@kaibundo.jp

清水水先区水先人会

会長 日比野 雅彦
副会長 鈴木 泰治

〒424-0922 静岡県清水区日の出町10番80号
清水マリナーミナル3F
電話 (054) 352-2191
FAX (054) 351-0527

■ センポスの宿・健康診断 ■



一般財団法人
船員保険会

会長 霜鳥 一彦

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6
SEMPOSビル 6・7階
電話 (03) 3407-6061 FAX (03) 3407-6597
URL <https://www.sempos.or.jp>

役員立候補者募集

一般社団法人全日本船舶職員協会は、役員(理事・監事)の任期が2年となっており、現役員の任期は2024年度通常総会をもって終了します。

そのため、以下の要領で候補者を公募して2024年6月に予定される通常総会において新役員を選任することを下記の期間募集します。

募集期間

募集開始:2023年12月11日(月)

募集締切:2024年1月22日(月)

*詳細は協会HPを参照願います